150102産業廃棄物処理業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発生時	死亡災害事例	起因物（小）	事故の型	労働者規模
2022	1	12～14	被災者はトラック助手席に乗ってごみ収集の補助業務に従事する者。被災者は敷地内２階建て倉庫の２階へ、収集時に使用予定のごみ袋を取りに行き戻る際、２階扉を出て外階段への通路（長さ約５m、幅約１．１m）の途中で、端部から３．２７m下の地面へ墜落し頭を打った。同月中に死亡。端部に張られていたプラスチック製チェーンは墜落時に切断。	417	1	10～29
2022	1	8～10	１０トントラックの荷台から古紙を降ろす作業を行うため、被災者が荷台後部の片開きの扉を開けたところ、紙やプラスチックが圧縮成形されたブロック５個のうちの１個が落下し、被災者が下敷きとなり、医療機関に搬送されたが、同日、死亡した。	611	4	30～49
2022	2	12～14	産業廃棄物の収集運搬業務に従事する被災者が、被災当日の収集運搬業務を終え、事業場所在地から離れた位置にある（直線距離で約６２４m）駐車場に収集運搬者を駐車した後、事業場事務所に戻るため、自転車で県道の進行方向右側を北西方向に走行し、国道に交わる交差点に青信号で侵入したところ、県道を南東方向に走行し、交差点で国道に左折した普通乗用車と衝突し、多発外傷により死亡	231	17	1～9
2022	5	14～16	工場の倉庫から敷地前の道路に停車させた大型トラックに被災者がフォークリフトを用いてドラム缶を積み込んでいたところ、ドラム缶の蓋が歩道に落下したので、フォークリフトを後退させ、停車し、運転席より降りて蓋を拾った際、無人のフォークリフトが動き出し、フォークリフトとトラックの間に挟まれたもの。	222	7	1～9

2022	6	16～18	被災者は、大型の機械設備を解体するため、エアープラズマ切断機を用いて溶断作業を行っていたところ、溶断していた機械設備の一部（鋼板）が倒れ、その下敷きになって死亡した。 本件は単独作業であり、災害を現認した作業者はおらず、鋼板の下敷きになっている被災者を同僚が発見したもの。	521	5	30～49
2022	6	14～16	被災者は散水車を運転し事業場敷地内の解体部材の捨場の山に上がって散水した後、幅７ｍの搬入斜路を通り山を下りる際、散水車を後進させて下ったところ、後輪が斜路の路肩に乗り上げ、そのまま同所から斜面長５．８ｍ高さ約４ｍの法面を転落。散水車は右側面を地面に付ける形で停止。この間被災者は開けていた運転席右側の窓から放り出され、地面と車体に上半身を挟まれた。被災者は胸部圧迫から低酸素脳症を発して死亡。	229	1	10～29
2022	6	6～8	被災者は単独でダンプトラック（最大積載量６．３トン）の作業開始前点検を行っていた。運転席を離れて荷台にいたときに当該トラックが後進しだした。 その後、地上で壁にもたれかかっている状態で発見された。周辺は壁に向かって下り勾配であった。当該トラック後部と壁との間は約３０センチメートルであった。当該トラックの原動機は稼働させたまま、ギヤはニュートラル、サイドブレーキは引かれた状態であった。	221	7	30～49
2022	6	8～10	被災者は、アタッチメントを全回転ロールクランプに変更したフォークリフト（最大積載荷重７５０ｋｇ）に乗り、刈草（自社駐車場の草刈りで発生）を集めていた。刈草入りドラム缶をクランプで両側から掴み、コンテナまで走行しドラム缶を逆さまにして刈草投入後、空ドラム缶を下降・回転させながら、右後方に方向転換しつつ後進中に同車が倒れ、同車マストの下敷きになり、搬送先病院で死亡した。	222	2	10～29
2022	7	16～18	廃棄物処理施設内の破砕機を清掃作業中、破砕機ホッパー内に転落し、破砕機の回転刃に巻き込まれた。	162	7	10～29
		14	橋梁補修工事現場事務所敷地内の産業廃棄物保管場所で、産業廃棄物を積			10

2022	7	～16	載型トラッククレーンを用いて貨物自動車に積み込み中、貨物自動車の荷台でクレーンを操作していた被災者がリモコン操作を誤り、クレーンで吊り上げた産業廃棄物に煽られ、荷台の上から転落し、背中を強打したもの	221	1	～29
2022	9	16～18	廃棄物の分別のため、ディスクグラインダーで金属を切断していたときに右大腿に接触し、動脈損傷により失血死したもの。	153	8	50～99
2022	9	18～20	被災者は解体用つかみ機で木材の一次破砕機に木材の投入作業を行っていたところ、行方不明となり、その後一次破砕機、二次破砕機及びその周辺から被災者の身体の一部が発見されたもの。一次破砕機の傍にはうまが置かれており、被災者は、一次破砕機のホッパーに転落し、回転する破砕ローラーに巻き込まれたものと推定される。	162	1	1～9
2022	11	12～14	被災者は、高速道路のＩＣから東に２ｋｍ地点の高速道路車線を７トンのタンクローリーで走行中、前方で１台のトラックが故障のため停止していたところ、トラック２台が相次いで追突し、被災者の運転するタンクローリーがその後ろに追突し死亡したもの。	221	17	50～99
2022	12	8～10	ごみ収集車を運転して移動中、市道の道路脇（下り勾配３度）に停車して運転席から降りたところ、ごみ収集車がゆっくり前進し、約１０ｍ進んだ先の田んぼに転落して、運転者が下敷きになった。	221	17	1～9
2022	12	10～12	被災者は元方事業場敷地内のごみ拾い作業を行っていたところ、廃プラを積み込んだバッカン（以下、「荷」という。）を運搬してきた元方事業場の労働者が運転するフォークリフトの荷に激突され、その後、フォークリフトの前輪に腹部を轢かれて被災した。	222	7	10～29
2021	2	6～8	被災者が事業場敷地内（屋外）を暖機運転を行うため重機が置かれている場所に徒歩にて移動中、背後より、他の労働者が運転し前進中であるホイールローダーにひかれたもの。	141	7	10～29
2021	3	14～	天井クレーンのクレーンガーター上にある横行装置用近接スイッチの点検及び調整中、クレーンガーター上にいた点検作業員からの合図に従い、操作室のクレーン運転士が横行装置を動かしたところ、点検作業員が給電	211	7	10～

		16	ケーブルの支柱と横行装置に挟まれ被災した。病院に搬送されたが、数時間後に死亡が確認された。			29
2021	4	12～14	被災者が運転する４ｔコンテナ車が産業廃棄物を収集するため客先に向かっている途中、信号待ちで停車していた車列（６台）に追突した。被災者は意識不明で救急搬送され病院で死亡が確認された。 現場は一方通行の１車線。	221	17	10～29
2021	4	14～16	事業場Aの構内において、事業場Bの労働者（以下、被災者という。）が、フレコンバックを吊ったフォークリフトを運転し、ステンレス製の床面を走行させていたところ、突然ステンレス製の床が凹み、バランスを崩して転倒したことにより、被災者の頭部がフォークリフトと床の間に挟まれ死亡したもの。	222	2	1～9
2021	4	12～14	建設現場等で使用するバッカン（産業廃棄物用ゴミ箱）内のゴミの分別の為、バッカンの縁に乗って作業していたところ、バランスを崩しバッカンの外側に墜落し、地面に頭部を強打したもの。バッカンの高さは１１０センチメートルであった。ヘルメットは着用していたが、頭蓋骨骨折・クモ膜下出血との診断を受けた。被災当初は意識もあり、命に別状はないとされていたが、容態が悪化し、死亡したもの。	391	1	1～9
2021	4	12～14	廃棄物処理施設にある洗車場において、エンジンがかかったまま無人の状態でゴミ収集車が停車しているところを、他事業の運転手が発見し、同施設の職員がゴミ収集車のテールゲートを確認したところ、テールゲート内部の回転板の陰に横たわる被災者を発見した。その後、消防署員がテールゲート内部から被災者を救出したが、頭蓋骨骨折しており、間もなく死亡した。	229	7	10～29
2021	5	6～8	被災者が収集したごみを清掃工場へ運搬するため事業場を出発しようとしていたが、事務所に用事があったため、事務所の側にごみ収集車を停車させ事務所に立ち寄った。用事が終わり外を見ると停車していたごみ収集車が動き出していたため、急いで追いかけたが止められず、道路を挟んだ向かい側の他事業場入口のシャッターと逸走したごみ収集車の間に挟まれた	229	7	10～29

			もの。			
2021	6	10～12	被災者は本件事業場でコンクリート廃材プラントの運転の業務を行う者。作業中にコンクリート粉砕機の排出口が詰まったため、近隣の労働者Ａと共に詰まりの解消を行った後、労働者Ａに指示をして、ベルトコンベアを動かした。数秒後労働者Ａがベルトコンベアを停止し、被災者の姿が見えなかったため確認に行ったところ、プーリーの下に体を入れ、ベルトコンベア端部の架台の上に頭を乗せて、死亡している被災者が発見された。	224	7	1～9
2021	6	10～12	事業場敷地内において、同僚の運転するトラクター・ショベル（車両系建設機械、機体質量１１ｔ）が通過した後に、うつ伏せになって倒れている被災者が発見されたもの。倒れた被災者の頭部付近の地面には血痕が残っていた。 トラクター・ショベルは敷地内の屋内保管ヤードから製品置場に向かってＲＰＦ（廃棄物固形燃料）を運搬する途中だった。	141	7	30～49
2021	6	10～12	被災者は、堆肥で使用する木くずを運送するため、トラックを運転していたところ、県道で、急カーブを曲がり切れず、ガードレールを突き破って、２０メートル下の国道に転落し、死亡したもの。	221	17	1～9
2021	9	10～12	被災者は、構内処理施設において、廃塗料処分の前処理工程として行われる「一斗缶に入った廃塗料を他の廃缶に柄杓で移し替える作業」を行っていたところ、何らかの原因により廃塗料が発火して延焼し、付近に置かれていた廃塗料が激しく燃え、被災者の衣服に引火したことにより全身火傷を負ったもの。 被災後に救急搬送された病院で治療が続けられていたものの、後日死亡が確認された。	512	16	30～49
2021	9	8～10	被災者は、つかみ機で廃棄物を粉砕機に投入する作業を行っていた。粉砕機に廃棄物が詰まったため粉砕機を停止し、同僚と二人で詰まりの除去作業を行った。粉砕機操作盤の前にいた同僚に、ホッパーの外にいる被災者から粉砕機を動かすよう指示があり、同僚が粉砕機を再起動したところ、被災者がホッパー内で粉砕機に左足を巻き込まれ、搬送先の病院で死亡した。被災者がホッパー内に入るところは誰も見ていない。	162	7	100～299
			被災者が焼却炉施設の再燃焼室のダクト内にて、堆積した煤塵を掻き出す			

2021	10	16～18	作業を行っていたところ、何らの理由でダクト内にある開口部に墜落した。使用していた墜落制止用器具にて墜落は制止されたため、同僚らで救出活動にあたっていたが、その後再燃焼室底部で稼働していたコンベヤに巻き込まれて被災した。	341	1	50～99
2021	11	18～20	産業廃棄物中間処理施設の汚泥ピット付近において、１０トンダンプの洗車作業を行っていたところ、後進中のトラクター・ショベルに轢かれた。	141	6	10～29
2021	11	10～12	作業員４名で、ドラグショベルを使用しブロックの積み替え作業を行っていた。被災者はブロックに付属する吊り上げ用金具の清掃作業を行っていたが、ドラグショベルを旋回させた際に、近くで作業をしていた被災者がブロックとドラグショベルのカウンターウェイトの間に挟まれた。	142	7	10～29
2021	12	2～4	最大積載量１０．６トンの貨物自動車の高さ約３．５メートルの荷台（積み荷であるゴミ）の上で荷下ろしのためのシート外しを荷台後方で行っていたところ、墜落し、死亡した。	221	1	30～49
2020	1	14～16	擁壁を鉄板で補強するため、鉄板上部の溶接を行い、鉄板下部の溶接を行うため、コンクリート圧砕機で鉄板を押さえたところ、被災者が溶接を行うため、コンクリート圧砕機のアタッチメントと床面の間に体を入れた際、アタッチメントが下に滑り、被災者の頭部がアタッチメントと床面の間にはさまれた。	145	7	10～29
2020	1	14～16	産業廃棄物の中間処理場にて、場内に運びこまれた廃棄物の分別作業を行っていた際、バックしてきた同僚労働者が運転する車両系建設機械（つかみ機）に轢かれたもの。災害後病院へ搬送されたが死亡が確認された。	145	7	10～29
2020	1	12～14	ゴミ集積場所付近の路上に機械式ごみ収集車を停車させ、テールゲートの回転板を連続回転させながら、被災者が一人で一般ごみ（燃えるごみ）の回収作業を行っていたところ、テールゲートホッパー内に身体の一部が入り込み、回転板に全身を巻き込まれ死亡した。なお、機械式ごみ収集車には、非常停止装置が設けられていた。	221	7	10～29

2020	2	16～18	同僚が被災者の大きな声を聞き、向かったところ、廃プラスチック粉砕機のローラーの間に足先から骨盤までを挟まれている被災者を発見。救出後に病院に運ばれたが死亡した。一人で作業を行っており、現認者はいない。救出にあたった者の話では、間違えてリモコンのボタンを押してしまった旨被災者自身が話していたとのこと。	162	7	10～29
2020	2	14～16	ベルトコンベヤーから流れてくるコンクリートガラ中のプラスチックごみを取り除く作業を行っていた被災者が、ベルトコンベヤーのプーリー付近で頭部から出血して倒れているところを同僚に発見されたもの。災害時の目撃者はいないが、頭部、腕、肩等を骨折しており、回転中のプーリー又は回転中のベルトとホッパーとの隙間に巻き込まれたものと推定される。	224	7	10～29
2020	4	14～16	４名でトラック２台に分乗して現場から移動中、トラックの荷台のほろが外れかけたため、道路下り線の路肩に停車して、ほろの取り付け作業をしていたところ、大型トレーラーが追突したもの。	221	17	10～29
2020	4	14～16	４名でトラック２台に分乗して現場から移動中、トラックの荷台のほろが外れかけたため道路下り線の路肩に停車して、ほろの取り付け作業をしていたところ、大型トレーラーが追突したもの。	221	17	10～29
2020	4	16～18	産業廃棄物プラントにおいて、エンジンがかかった状態で停止していたトラクターショベルに対し被災者がメンテナンス作業をするため重機左側前輪と後輪の間に入り作業を行っていたところ、別の運転手が被災者に気付かず前進させたため、左後輪に巻き込まれたもの。	141	7	1～9
2020	4	14～16	被災者は、パッカー車（ゴミ収集車）で収集した古紙類を、古紙問屋である作業所で廃棄作業を一人で行っていたところ、パッカー車後部の圧縮板に頸部が挟まれ死亡したもの。	221	7	50～99
2020	7	8～10	被災者は、コンクリートガラのリサイクル設備（１次クラッシャー）のコンベヤーの下に巻き込まれた状態で発見されたもの。	224	7	100～299
		16	産業廃棄物の中間処理場において、屋外で不燃物の分別作業に従事していたところ、夕方頃、倒れているところを上司に発見された。発見時に意識			1～

2020	7	～18	はなく、病院に搬送されたものの、意識不明の状態が続き、翌日熱中症により死亡したもの。	715	11	9
2020	8	12～14	ダンプカーの荷台を後方に傾けて土砂を搬出する際、アオリが開かず、当該土砂が荷台後方に偏ったため、ダンプカーが後ろ向きにひっくり返って約５メートル転落したところ、運転席部分が近くに停車していたドラグショベルに激突し、運転手が被災したもの。	221	1	30～49
2020	8	18～20	産業廃棄物処理業において、焼却炉３階ステージで炉内補修用の補修材をミキサーで練る作業を行っていた。同僚が水分補給のため休憩所に向かい戻ってきた時には、被災者は泡を吹いて倒れていた。同僚が作業場所を離れたのは３分程度。災害発生日は夏休み（１週間）明け初日で、終日焼却炉を稼働するための準備作業を行っており、焼却炉は稼働していなかった。被災者は、計測機器の更正、清掃作業等軽作業を中心に行っていた。	715	11	50～99
2020	8	8～10	被災者はコンベアーに設けられたスクリーンの交換作業に従事した際に気分が悪くなり、その場に座り込んだ。様子がおかしいと思った同僚が事務所に車で運んだ。その際は、会話もでき意識も清明であったが、その後、突如様態が悪化し、救急車により病院に搬送されたが、熱中症が原因と思われる心臓突然死の疑いで死亡した。	715	11	1～9
2020	8	14～16	ホテルの敷地内において、プラスチック製コンテナ３個を車両積載型トラッククレーン（つり上げ荷重２．６ｔ）で回収するため、労働者２名で同クレーン周辺にコンテナを移動させ、その後被災者一人で作業していたところ、夕方頃同クレーンの右後方付近で倒れている被災者を発見され、病院へ救急搬送されたが、搬送先の病院で死亡が確認されたものである。	221	1	10～29
2020	8	14～16	被災者は、パレットに積み上げられた産業廃棄物である木製板を破砕するため、当該木製板をフォークリフトにより高さ３ｍほど上げ、破砕機の横に設置した高さ３．５ｍの足場の上から投入していたところ、当該破砕機の中に転落したもの。	411	1	1～9
			事業場敷地内の構内道路にて、草刈り作業を担当していた被災者が、作業			

2020	9	14～16	場所へ向かうため、あおりのない貨物自動車の荷台の左側に座り、移動していたところ、下り坂の方へ右折した際に、体ごと外へ投げ出され転落した。被災者はコンクリートの地面に頭や顔を強く打ち、直ちに市民病院へ救急搬送されたが、死亡した。 被災者は当時ヘルメット、上下作業着、長靴を着用。	221	1	30～49
2020	9	16～18	デッキバージと呼ばれる浮き桟橋（長さ７４．９m、幅３０．４m、高さ３．０m）に土砂を運搬する作業において、被災者が土砂置き場からデッキバージに土砂をダンプトラック（最大積載荷重８．９トン）に積んで運搬作業中、被災者が運転するダンプトラックが法面に前方から激突しており、運転席で意識のない状態で発見された。ダンプトラックが激突した法面は、下り坂（傾斜８度）を下った先のＵ字の曲がり角付近であった。	221	3	1～9
2020	9	10～12	産廃処理工場において、圧砕機を用いて鉄筋コンクリート片を破砕していたところ、はさみ状アタッチメントに鉄筋が引っ掛かった。被災者が開いた状態のはさみ状アタッチメントの下で、はさみの間をのぞき込むような状態で鉄筋を外していたところ、アタッチメントが作動し、胸部をはさまれて死亡したもの。	145	3	1～9
2020	10	10～12	事業場内で、脱着装置付きコンテナ車（大型トラック）にコンテナ（荷台）を架装するため、車体に装着されたアームのフックにコンテナを引っ掛けてトラックの車体に引き上げ架装していたところ、フックが外れてコンテナがずり落ち、後方を通りかかった被災者に激突した	221	4	10～29
2020	10	16～18	産業廃棄物から生じた液体を貯留するタンク（ガラス繊維強化プラスチック製、全高１．４メートル、直径１．５メートル、容量１．５立方メートル）の内部を清掃する作業において、内部に立ち入った作業者が突然意識を失ったもの。	714	12	10～29
2020	10	8～10	ゴミステーション内にある一般家庭ゴミを収集するため、塵芥車を傾斜がある道路上に止め同僚と収集作業を行っていたところ、塵芥車が後方に動き出し被災者が車両の下敷きとなったもの。	221	17	10～29
			工場（作業者２人のみで一つの事業場に該当しない分工場）内において、			

2020	11	6～8	パッカー車から廃棄物（段ボール）を排出後、上げていたテールゲートを運転席で操作して下降中であった。被災者は離れた位置で同車とは関係のない作業をしていたが、下降が一時停止した間に同車に接近し、車体左側から、荷箱後端とテールゲートとの隙間に体を差し入れた時にテールゲートの下降が再開したためはさまれたもの。	221	7	30～49
2020	11	12～14	中間処理工場内の古紙リサイクル場にて古紙圧縮梱包機を用いて段ボール等の古紙を圧縮梱包作業中に、古紙圧縮梱包機のシリンダー点検扉を開けて中を確認したところ、制御棒が被災者の頭部に激突し、死亡したもの。	164	7	10～29
2020	12	12～14	被災者は、分別作業中にめまいを起こして仰向けに倒れ、コンクリートの床に後頭部を打ちつけた（軽作業用保護帽の着用あり）。後日、容態が急変して急性硬膜下血腫による脳ヘルニアにより死亡したもの。	921	2	10～29
2020	12	14～16	建設廃材を再利用するためのリサイクルプラントにおいて、コンクリート塊を破砕するためのシングルクラッシャーのホッパー付近でコンクリート塊が閉塞したため、被災者はホッパー周囲に設置された通路上からコンクリート塊の閉塞を解消しようとしていたところ、ホッパー内に転落し、コンクリート塊とともにシングルクラッシャーにはさまれて被災した。	162	1	1～9
2019	1	0～2	ごみ焼却施設において、１号灰押出装置の警報が発報したため、被災者が復旧するために現場に向かった。復旧作業は、点検口の下端高さ１６５ｃｍの点検口（１００×７３ｃｍ）から鍬等を使って灰を掻き落とす作業である。点検口の前には、４段式の点検台（４段目高さ１２０ｃｍ）が横向きに設置されていたが、被災者の動向を確認するために場内を巡視していた者が、その点検台の前にうつ伏せで倒れている被災者を発見した。	371	1	10～29
2019	2	8～10	被災者は朝から一人で被災現場で産業廃棄物を入れたコンテナ（総重量２．３ｔ）を回収するため、車両積載型トラッククレーンで積込み作業を行っていた。荷を吊り上げ、ジブを旋回させた際、機体がバランスを崩し、操作していた被災者の方へ横転し下敷きになったもの。	212	6	50～99
		12	被災者は会社敷地内において、大型トレーラーの荷台に積んだ積荷のタイヤ片の積み方を整えるために、大型トレーラーの荷台に上がりあおりの上			1～

2019	3	～14	に乗って作業を行っていたところ、バランスを崩し頭から地面に墜落した。被災者はヘルメットの着用をしていなかった。	221	1	9
2019	4	14～16	停車中のバキュームカーの後方で作業をしていた労働者が、後方から来た中型トラックに衝突され、バキュームカーとの間に挟まれ、病院に搬送されたが、約２時間後に死亡が確認されたもの。	221	17	30～49
2019	5	12～14	建材の廃材や樹木等の木材を解体する工程において、被災者がベルトコンベヤーのベルト上で補修作業を行っていたところ、約６．２メートルの高さから墜落、７時間後に死亡が確認されたもの。	224	1	50～99
2019	6	16～18	被災者はフォークリフトを使用して鉄の廃材を運搬する業務を行っていたところ、廃材のツルハシの金属部がバックレストの下部に引っかかっていることに気づいたため、フォークを上げてバックレストの下部に入り込み、ツルハシを引き抜いたところ、フォークが降下し、被災者の頭部がバックレスト部と地面に挟まれたもの。	222	7	10～29
2019	6	8～10	中間処理施設にて、始業後すぐコンベヤの詰りを解消するため一人で点検を行っていた。夕方になっても姿が見えないため別の労働者が探していたところ、点検口から被災者の足が見え、上半身に産廃が覆い被さっているのを発見した。すぐに救急に連絡し救急隊が救出を試みたが、その日に死亡が確認された。機械の主電源は切られ、機械も停止した状態で、被災者は、ヘルメット、呼吸用保護具は着用していなかった。	169	4	1～9
2019	7	10～12	被災者は、出張先の事業場内において汚水タンク内の洗浄作業を高圧洗浄機を用いて行っていた。その後、洗浄が終了し、他の労働者が汚水タンク内の水吸引する作業に取り掛かった。このため、その間に被災者は、高圧洗浄機にガソリンを補給しようとガソリン携行缶のエア調整ねじと給油口を同時に開けたところ、ガソリンの可燃性ガスが一気に大気中に放出したため、静電気が発生し発火、それが被災者に引火したもの。	512	16	1～9
2019	8	12～	収集運搬車で廃棄物の収集運搬業務に従事していた被災者は、昼休憩中に頭痛があり、風邪薬を服用したが回復しないために医療機関を受診したと	921	90	1～9

		14	ころ、「くも膜下出血」を発症しており、後日死亡したもの。			
2019	10	10～12	粗製ベンゼンを運搬したケミカルタンカーの、空になったタンク内のスラッジ（汚泥）をスコップ等で除去する作業を行うため、４名の作業員が有機ガスマスクを着用しタンク内に入ったところ、１名の作業員が急に倒れ、救急搬送されたが、同日午後死亡が確認された。	514	12	1～9
2019	10	10～12	マンションのごみ集積場所付近の路上に機械式ごみ収集車を停めて、テールゲートの回転板を連続運転させながら、プラスチックごみの回収作業を実施していたところ、テールゲートホッパー内に身体の一部が入り込み、頭部から回転板に巻き込まれ死亡したもの。	221	7	10～29
2019	10	8～10	被災者は、何らかの目的で、汚泥を分離するシックナーという装置（高さ約１０ｍ）の上部に設置されている作業床に登ろうとしたところ、当該シックナーの縁を回る原動機のプーリーとチェーンとの間に右大腿部を挟まれ巻込まれたもの。なお、目撃者はいない。	121	7	30～49
2019	11	8～10	事業場の廃材置き場において、廃材を積み込んだ４トントラックの荷台にシートをかけるよう指示を受けた労働者が、トラック運転席横で倒れている状態で発見された。	221	1	1～9
2019	11	14～16	ゴミ収集車で資源ゴミ（新聞や段ボール等）を運搬する作業中、ゴミ収集車のホッパーの奥に残ったゴミの破片を取り除こうとしていた。作業員がホッパー内に頭を入れたまま、同僚に回転板を上げるように指示したところ、同僚が誤って回転板を下げるボタンを押したため、首が回転板に挟まれ死亡した。	229	7	10～29
2019	11	8～10	１人で貨物自動車を運転して廃棄物の集積作業をしていた被災者が、病院棟地下１階の置場から廃棄物を回収する際、そこにいた工事車両の搬出を待つため付近の坂の傾斜１０度の地点に貨物自動車を停車させたが、ギヤをニュートラルとし、サイドブレーキを完全に引かなかったため、降車後、貨物自動車が逸走し始め、それを咄嗟に止めようとして進行方向に立ちはだかり胴体を左前輪で轢かれ死亡した。	221	7	100～299
			被災者が廃棄物運搬用ベルトコンベアーのベルトコンベアーとローラーと			

2018	1	10～11	の間に上半身を巻き込まれたもの。被災者はベルトコンベアーのローラー部に詰まった廃棄物を撤去しようとして点検口の鉄製の蓋を開け巻き込まれたものと思われる。	224	7	1～9
2018	1	10～11	基地において、当該事業場の労働者Ａがトラクター・シヨベルを用いて、基地内で掘削した土砂等の運搬作業をしていたところ、車両誘導作業をしていた被災者に気づかず後進したためトラクター・シヨベルの右側後輪に接触し、巻き込まれたもの。なお、被災者は、入院により継続治療を行っていたが、後日死亡したもの。	141	6	10～29
2018	1	20～21	工場内の計器の巡視作業を行っていた被災者が、通路上の開口部より１５m下に墜落した。災害発生当日、工場内では機械の据付作業を行っており、設備担当者が機械の搬出入のため通路の床（グレーチング）を取り外して作業を行い、当該グレーチングを復旧しなかったため、グレーチング撤去後の箇所は開口部（９９ｃｍ×１０４ｃｍ）となっていた。なお、開口部の周囲に立入禁止等の墜落防止措置は講じられていなかった	417	1	50～99
2018	1	14～15	当該労働災害は中間処理施内の破砕処理施設に設置される機械（建設現場での産業廃棄物用の粉砕機）で発生したもの。被災労働者がドラグ・ショベルで産業廃棄物を投棄し、別労働者が機械の操作を行っていたところ、異物が処理されず機械が停止する不具合が生じた。被災労働者が粉砕機内の異物を取り除こうと機械に入ったところ、機械が動き始め、巻き込まれた。	169	7	10～29
2018	2	18～19	工場敷地内のリサイクル家電品の積置用ヤードにおいて，荷降ろされた家電品を分別及び搬送するため用いていたフォークリフトを運転者が後退させた際、終業後同敷地に隣接する駐車場へ向かって歩いていた被災者が当該フォークリフト左後輪に接触し左半身を負傷したもの。その後左手首切断手術、内臓損傷修復手術等を行ったものの、後日死亡した。	222	6	100～299
		10	被災者は朝からトラクターショベルを運転し、事業場の敷地の排雪を行っていたが、燃料が少なくなってきたことから、事業場に保管されているポ			10

2018	2	～11	リタンクから燃料を給油するため、タイヤのカバー部分（高さ１．５６m）に上がり、地上の同僚と給油口の上のカバーを持ち上げた。他の運搬車が入ってきたため、誘導のため同僚が離れたところ、ドスンという音がし、振り返ったところ、被災者が床に倒れていた。	141	1	～29
2018	3	10～11	被災者が１人でダンボールの回収作業を行っていたところ、ごみ収集車が前進し、ごみ収集車と門柱にはさまれたもの。	221	7	30～49
2018	3	10～11	被災者は、ドラム破砕機より異音がして停止したのでドラム破砕機の破砕刃に干渉していた金属塊を取り除くため、上部からドラム破砕機のホッパー内に立ち入り、約３メートル下にある破砕刃まで降り立った直後に意識を失い倒れたもの。ドラム破砕機のホッパー内は破砕時の薬液への引火防止のため、窒素ガスが注入され酸素欠乏状態となっていた。被災者は、低酸素脳症を発症し、病院で治療を受けていたが、後日死亡した。	714	12	30～49
2018	4	16～17	原料製造工場において、被災者が一人でつり上げ荷重４．８４３ｔのホイスト式天井クレーンを用い機械のメンテナンス作業中、ホイストがクレーンガータから外れ、被災者の上に落下し被災したもの。	211	4	100～299
2018	5	10～11	水処理後の汚泥・し尿を，圧送用ポンプを用いてバキューム車から予備処理タンクに移送する作業中，予備処理タンクが設置された高さ（深さ）約４mのピット内に墜落し，急性硬膜下血腫により死亡した。	418	1	1～9
2018	7	12～13	廃棄物収集運搬を行う事業場の有価物置場敷地内において、有価物（ラジオ等小型家電）を詰め込んだフレキシブルコンテナバック（重量１２３ｋｇ）の紐をフォークリフトの爪で引っかけて、吊り下げた状態でバック走行により運搬作業中、敷地と公道の出入口部分に傾斜した箇所があり、当該傾斜箇所にフォークリフトがバックで進入したことによりバランスが崩れて公道側に横転し、被災者の頭部が道路とヘッドガードに挟まれた。	222	2	10～29
2018	8	8～9	自治会の資源物回収作業中、パッカー車の後方で仰向けに倒れている被災者が発見された。被災者は救急車で病院に搬送されたが、後日脳挫傷により死亡したもの。	921	2	30～49

2018	8	14～15	被災者は、工場棟３階にある投入ステージ（ゴミ収集車が持ち込んだごみをごみピット内に投入する場所）において、投入扉の前に落ちていたトレーを手で拾ってピット内に落とし入れようしたところ、前向きの状態で深さ約１７メートル下のごみピット内に墜落し、搬送先病院にて死亡したもの。災害発生時、投入扉は全開であり、被災者は、保護帽、安全帯を着用していなかった。	414	1	10～29
2018	8	12～13	ガス溶接機により、ドラム缶を円周方向に溶断し容器を作成する作業において、３本目のドラム缶を溶断しようとガス溶接機の炎をドラム缶に近づけ一部に穴が開いた際に、ドラム缶が爆発し、当該ドラム缶から出たガスにガス溶接機の炎が着火し、当該炎により全身やけどを負ったもの。被災後療養していたが、後日死亡したもの。	512	14	30～49
2018	9	8～9	１Ｆにて産廃用コンテナをトラックから降ろした後、トラックを待機場所に移動した。２次協力会社作業員がトラックへ廃棄物の積み込みを開始、その後終了したため被災者を探したところ、コンテナ設置場所に隣接する立体駐車場Ｂ３ピット（深さ１７ｍ）で倒れているのを発見し消防署に連絡した。救出され病院に搬送されたが、死亡が確認されたもの。	414	1	50～99
2018	9	10～11	産業廃棄物処理場内において、廃棄物の上に土砂をかぶせる作業を行っていた。土砂はフレコンバッグ（重量７９０ｋｇ）にて運搬され、車両系建設機械（解体用つかみ機）を使用してフレコンバッグをつり上げ、フレコンバック下部にあるロープを切断して、土砂を降ろす作業をしていた時、フレコンバッグの上部２０ｃｍ付近からフレコンバッグが裂け落ち、フレコンバッグ下部で作業していた被災者が下敷きになり脳挫傷で死亡した。	145	4	30～49
2018	9	8～9	事業場に産業廃棄物の回収のため、自動車道をワゴン車で走行中、右後輪がバーストし、ハンドルをとられて構造物に激突して即死したもの	231	17	1～9
2018	9	16～17	運転中のフォークリフトが転倒し、頭がい骨骨折を受傷（頭部より出血、詳細不詳）した被災者を事業主の家族が発見したもの。	222	2	1～9

2018	9	14～15	焼却炉から取り外し補修した壁（材質：粘土等、大きさ：高さ１．５３m、幅２．４５m、厚さ８ｃm、重量約２００ｋｇ）を立て掛けた状態で、被災者がバールを用い固定位置の微調整を行っていたところ、立て掛けていた壁が倒れ、身体を倒壊した壁と後方のホッパー架台との間にはさまれたもの。	418	5	1～9
2018	9	6～7	古紙を圧縮したブロック（１m角、重さ５４０ｋｇ）の集積場所で、３段に積み上げたブロックが倒れ、近くで掃除作業を行っていた被災者が下敷きとなったもの。当該ブロックの３段目は直前にフォークリフトで積まれたものであった。	611	5	10～29
2018	10	4～5	国道において、大型トラックで南下していた被災者が北上していた中型トラックと正面衝突し、それぞれの運転手が死亡した。	221	17	10～29
2018	12	10～11	社長が車両積載型トラッククレーンを操作し産業廃棄物のコンテナを吊り上げて移動させた後、被災者は社長の指示により玉掛けフックを付け替えようと梯子を移動させていたところ、そのコンテナが倒壊し下敷きになったもの。	611	5	1～9
2017	1	14～15	一般住宅の廃材等（木材）をチップにする工場内において、ベルトコンベアー上を流れてきた粉砕された木屑から、木材以外の鉄屑やプラスティック等を手選別により選別していた被災者が、選別箇所のコンベアーに送り出される直前の供給機のローラーに右腕を巻き込まれた。	224	7	10～29
2017	2	10～11	ガソリンスタンドの敷地内において、労働者がトラクターショベル（機体重量３トン以上）を運転して、寄せ集められた雪を４トントラックへ積み込む作業を一人で行っていた。その作業中、トラクターショベルを後退させた際にガタンという音がしたため、運転席から降りて確認したところ、仰向けで地面に倒れている被災者を発見した。	141	7	100～299
		6	被災者は鉄屑をトラックで工場内の鉄屑下ろし場に搬入した。作業員が、ドラグショベルにリフティングマグネットを装着した移動式クレーンを使			10

2017	2	～7	用してトラックの荷台から鉄屑を下ろす作業を行っていたが、近くで見ていたはずの被災者の姿が見えなくなったため、荷台の中を確認したところ、荷台の後方で倒れている被災者を発見した。なお荷台の中には竹ぼうきが落ちていた。	212	6	～29
2017	3	16～17	被災者が終業時間になっても事務所に帰ってこないため、同一敷地内の別会社の労働者が作業場所に探しに行ったところ、堆肥化発酵装置の上部にあるバケット巻上ドラムに巻き込まれた被災者を発見した。	214	7	1～9
2017	4	14～15	被災者は、産廃の中間処理場において箱型のダンプ車を高圧洗浄機で洗車する作業を行っていた際、荷台を洗浄するために荷台の天井に備わっている前方の蓋を前方に、後方の蓋を後方に開けて、前方の蓋を荷台に固定せずに荷台を上方に傾け続ける操作を行い、荷台上で洗浄作業を行っていたところ、荷台を大きく傾けたことにより前方の蓋が倒れて被災者に激突し、泥水が入っている洗車ピットに転落した。	713	10	1～9
2017	5	14～15	廃棄物埋立処分場において、産業廃棄物を積んだダンプの後方でダンプの誘導作業を行っていた被災者が、ダンプのあおりと荷台の間に頭部を挟まれた。負傷後、治療を受けていたが死亡した。	221	7	1～9
2017	5	6～7	病院廃棄物保管庫にて、廃棄物（ダンボール）を収集するためゴミパッカー車を駐車し車輌を降りた際、駐車した場所が緩やかな下り勾配であったことから自走し、当該車輌を止めようとして前方に入り込んだが、そのまま押されて、感染性廃棄物保管建屋と自走した車輌に挟まれた。	221	6	50～99
2017	5	16～17	積載型トラッククレーン（つり上げ荷重２．９３トン）で木材が入ったコンテナ（重量２．２トン）をつり上げ、移動させていたところ、当該クレーンが倒れ、操作していた被災者が下敷きになり、死亡した。	212	5	1～9
2017	6	10～11	再生砕石である路盤材の置き場において、路盤材に混入している異物を除去する作業を行っていた被災者が、後進してきたトラクター・ショベル（機体重量３トン以上、バケット容量３ｍ３）の右後方タイヤに轢かれた。	141	7	1～9
			業務に使用する４ｔトラックを取りに行くため、事務所から９１．４m離			

2017	8	8～9	れた駐車場へ向け道路（幅７．９ｍ）の路側帯（幅０．９ｍ）を労働者が徒歩で移動していたところ、後方から普通自動車が走行レーンから路側帯にはみ出し、激突した。普通自動車は労働者に激突後、２３．４メートル走行し、停止した。	231	17	10～29
2017	8	8～9	重機の整備を行っていたところ、下り坂を後進してきた散水車に激突され、重機と散水車との間にはさまれた。	221	7	10～29
2017	9	2～3	精選棟（産業廃棄物の選別・破砕等を行う処理施設）に設置されているコンベヤーについて、工事業者による修理作業が行われていた。修理作業が終わり、試運転させたところ、異音が発生した。直ちに停止させて周辺を確認したところ、近隣でコンベヤー部品の加工作業をしていた発注者の作業員が、当該コンベヤーに巻き込まれた状態で発見された。	224	7	50～99
2017	10	14～15	被災者は、トラック用タイヤのホイールに鋼材を溶接して、立て看板の土台を制作する作業を行っていたが、１４時３０分ごろ、事業場代表者が爆発音のような音を聞いたため、事務所から外に出て辺りを見渡したところ、立て看板の制作作業を行っていたはずの被災者が頭から血を流して倒れていた。	332	6	1～9
2017	10	12～13	ヤード内で鉄箱（縦１．２ｍ横１．７５ｍ高さ１．０ｍ）に入った空缶を回転フォーク付リフトで所定の置場に投下するため、スロープ（傾斜約６度）を横切り、置場へ近づいたところ路肩から転落（高さ０．９８ｍ）し、運転していた被災者がリフトと置場のコンクリート壁にはさまれた。	222	1	50～99
2017	10	8～9	被災者が空き缶等を圧縮するスクラッププレスに一斗缶を並べていたときに、当該プレスが動き出し、胸頸部を、下に動き始めた上蓋に挟まれ、続いて側方に圧縮する可動部分に挟まれた。	169	7	10～29
2017	10	10～11	清掃センター内において、分別が終わったごみをごみ焼却場までバケット付フォークリフトで運搬中、左前タイヤ付近に血が広がっていたため、フォークリフトを停車させ、タイヤ付近を確認すると、被災者の頭部を轢いていた。被災者は病院へ搬送中に死亡が確認された。	222	7	10～29

2017	10	6～7	ごみ収集車のホッパーロックが掛かっておらず、公道上でロックをし直すため、降車し、ホッパーを上昇させた際に、後方から来た乗用車に追突され死亡した。	231	17	1～9
2017	12	14～15	下水道から水が溢れているという緊急要請を受けて、水が溢れている箇所の下流側にある交差点の東側に位置するマンホールの蓋を開けた。被災者は、下水管の詰まりの解消作業前に、作業する箇所の写真撮影のため、保護具を使用せずにマンホール内に進入した。その後、地下２．４ｍの位置に座り込んで倒れているのが発見された。マンホールには硫化水素が充満しており、中毒症状を発症した。	514	12	50～99
2016	1	20～21	ショベルローダーを用いて、産業廃棄物の燃え殻を汚泥ピットに投入する作業を行っていたところ、ショベルローダーとともに汚泥ピット（深さ約５．４ｍ）に転落した。	225	1	30～49
2016	1	7～8	自宅から事業場への通勤途中に体調の異変により自ら救急車を呼び、病院へ搬送され治療を受けたが、同日急性大動脈解離により死亡した。	921	90	1～9
2016	3	9～10	産業廃棄物焼却炉において、炉のダスト排出口が詰まったため、固着したダストを金属製の掻き出し棒等で破砕・粉砕していたところ、炉内に堆積していたダストが一気に排出口から噴出し、作業中であった労働者３名が噴出した高温ダストを被って全身火傷等を負った。	341	5	100～299
2016	3	9～10	産業廃棄物焼却炉において、炉のダスト排出口が詰まったため、固着したダストを金属製の掻き出し棒等で破砕・粉砕していたところ、炉内に堆積していたダストが一気に排出口から噴出し、作業中であった労働者３名が噴出した高温ダストを被って全身火傷等を負った。	341	5	100～299
2016	3	9～10	取引先にアルミの納品を済ませ、会社への帰り道を４ｔトラックで走行中、反対車線を走行中の大型貨物自動車が中央分離帯を乗り越えて飛び出してきて正面衝突をした。被災者は頭部外傷により１時間後に死亡した。	221	17	1～9
		11	（屋外の）廃棄物処理場において、ガス遮断機の一部（であるアキュム			10

2016	4	～12	レータの部分）をＬＰガスを使用してガス溶断中、爆発し、その反動で２人が被災した。	312	15	～29
2016	4	10～11	車両系建設機械（グラップルがアタッチメント）を用いてフレコンバックをグラップルの両方の爪にそれぞれ一つずつ（各約４００ｋｇ）掛けてトラックの荷台に積み込む作業を行っていたところ、車両系建設機械の油圧ホースが裂けて油が噴出し、アームが急激に降下したはずみでフレコンバッグを外す作業を行っていた労働者にフレコンバッグが接触して荷台から地面に転落しその上にフレコンバッグが落下して被災した。	145	4	30～49
2016	5	14～15	自社のリサイクル工場において、被災者は雑草を刈るため、最大荷重２．５トンのフォークリフトに芝刈り機を載せ、工場入り口付近へ向かったが、運転操作を誤り、３．３ｍ下の調整池の縁にフォークリフトと共に転落した。	222	1	10～29
2016	5	16～17	当該事業場工場内に停車している最大積載量３，０００ｋｇのトラッククレーンの側に仰向けで倒れていた被災者を工場内にいた同僚が発見した。	212	1	10～29
2016	7	15～16	下り坂（勾配３度）の右カーブで制限速度５０ｋｍ／ｈ箇所を走行中、左前輪及び左後輪が車線をはみ出し、道路左脇の縁石を超え、その後のハンドル操作で車体は車線内に戻ったものの横転した。	221	17	10～29
2016	7	13～14	８０立米の窒素ガスタンク（タンク内は網目状のフロアデッキが４つもうけられている）内において、タンクの傷及び厚さの検査のために２人の作業員がタンク内に入り、作業準備のため下層部から最上層へ向かい荷物を運搬していたところ、１人作業員が３段目フロアデッキに着いて間もなく倒れた。倒れた作業員は救出後、死亡を確認。	714	12	50～99
2016	9	1～2	地震の災害ごみ仮置き場になっている村民グラウンドで、解体用つかみ機で廃材をつかんだところ、廃材の１部が約９メートルはね飛び、車両誘導等を行っていた作業員の眉間に当たった。	145	4	1～9
		14	事業場内にて、１０ｔトラックに廃プラスチックの束（重量約４８０ｋｇ）をフォークリフトを使用し積み込んでいたところ、廃プラスチックの			30

2016	10	～15	束がトラック荷台頂部に引っかかった。このため、被災者はトラック荷台頂部まで行き束の帯（番線）をニッパーで切断すると、廃プラスチックの束が崩れ、その勢いで被災者がトラック荷台から墜落した。	221	1	～49
2016	11	16～17	産廃の分別作業場において、被災者が定格荷重２ｔの天井クレーンを操作し、両端にハッカーを取り付けた吊り天秤を用いて玉掛けした重量約８００ｋｇの産業廃棄物輸送用脱着コンテナ（通称：バッカン）を運搬していたところ、つり荷のバッカンが滑り落ちて当該角部が被災者の側頭部を直撃した。	211	4	1～9
2016	12	8～9	ごみ収集業務に出発するため、被災者は自身が運転するごみ収集車の暖気運転を行おうとごみ収集車の運転席ドアを開け、運転席に座らず外からエンジンをかけたところ、ごみ収集車が前方に動き出した。ごみ収集車は右側にハンドルを切るような形で前進し、当該ごみ収集車の右側に駐車していた別のごみ収集車に接触し、２台の間にいた被災者は、２台の車両に挟まれ被災した。	229	7	100～299
2016	12	17～18	災害発生場所は産業廃棄物処理プラントの集塵機で、下部に集積した塵埃を排出口に送り込む２本のスクリューコンベヤがある。被災者は機器の異常に対処するため単独で作業中、当該スクリューコンベヤに巻き込まれた。	224	7	50～99
2015	6	8～9	コンクリートガラを破砕する破砕機に附属するベルトコンベヤーのロール部付近で倒れているところを他の労働者に発見されたもの。被災者は病院に搬送されるも、外傷性ショックによる死亡が確認された。発見時、当該コンベヤーは運転中で、被災者の傍らには、折損したスクレパー（ロールに付着したゴミを取除くための用具）が落ちていた。なお、当該コンベヤーのロール部付近に非常停止装置は設けられていなく、覆い等もない。	224	7	1～9
2015	5	11～12	事業場敷地周囲の崖付近で除草作業を行っていたところ、当該崖から河川に墜落した。その後、行方不明になっていたが、平成２７年６月１５日に河川で遺体となって発見された。 本件、被災者は一人で作業なので、被災時の目撃者はおらず、災害発生時間も不明であるもの（該報告に際して、	999	1	30～49

			「災害発生時間」は便宜上入力。）。			
2015	10	10～11	産業廃棄物処理施設において、被災者はパレットに積んだ空フレコンを移動させるため、フォークリフトを用いて、当該センター構内隣の農道を後退しての走行中、当該フォークリフトが農道から外れて田に転落し、横転した。その際、被災者は当該フォークリフトの下敷きとなり死亡した。	222	1	10～29
2015	1	10～11	構内に搬入された産業廃棄物（木くず混合廃棄物）の分別作業中、停止していた解体用つかみ機が他の運行車両の妨げとなっていたため、同僚が解体用つかみ機を運転、後退させたところ、後方で分別作業をしていた被災者がクローラ部に轢かれ死亡した。	145	7	10～29
2015	10	11～12	砕いた建築廃材を搬送するベルトコンベア上から廃材を選別する作業に被災者を含む複数名が従事していた。一旦停止させていたコンベアを再稼働させた直後、被災者はベルトコンベアの下部にあるベルト折り返しのプーリー部に巻き込まれたもの。	224	7	10～29
2015	8	14～15	木材破砕処理施設の点検・掃除を被災者が単独で行っていた。終業時刻を過ぎても見当たらないため同僚が捜していたところ、破砕機の投入ベルトコンベヤーが逆回転を続けていて、破砕機下部の別のベルトコンベヤー（停止）上で倒れている被災者を発見した。被災者は頭部挫滅により死亡した。	224	7	50～99
2015	1	14～15	産業廃棄物処理工場において、ばい煙冷却装置（直径２．２m、高さ７．３m）の不具合の調査中、熱湯となっていたばい煙冷却装置の冷却水を浴びて全身熱傷を負った。	391	11	1～9
2015	3	9～10	産業廃棄物処理事業者から分別等の作業を請け負っている事業場の労働者である被災者が、同処理業者の前選別ヤードで、廃棄物の分別作業に同僚５名と共に就いていたところ、後退した車両系建設機械（解体用）（機体重量１０．９トン、処理業者の労働者が運転）に下半身を轢かれ失血死したもの。	145	7	10～29
		17	被災者は事業場建屋内において、通常業務である産業廃棄物の分別作業を			10

2015	7	～18	終え、定時に退社したところ、帰宅途中に国道の歩道フェンスにもたれかかるようにして倒れている状態で発見され、救急搬送されたが翌日午前に病院で死亡したもの。（熱中症）	715	11	～29
2015	2	8～9	サイドクランプを着けたフォークリフトで鉄製コンテナ（横１．９ｍ×縦１．０ｍ×高さ０．９ｍ。内容物を含め重量約６１０ｋｇ）を運搬し、中身を出すためにコンテナを傾けたところ、サイドクランプからコンテナが外れた。 コンテナが床に落ち、倒れる際に、近くで分別作業を行っていた被災者が下敷きとなった。 同日の午後９時３０分頃、被災者は搬送先の病院で死亡した。	222	4	10～29
2015	11	12～13	焼却設備において、炉内の灰出し及び炉内への産業廃棄物の投入作業中、被災者が転倒して作業服に灯油が降り掛かり、作業服が燃えて全身を火傷したもの。 その後、１２月１日に全身火傷のため死亡したもの。	512	16	10～29
2015	6	16～17	廃棄物の分別・圧縮作業を終えて片付け等の作業をしていた被災者が、廃棄物を廃棄物圧縮機に投入するための垂直昇降反転機の搬器から圧縮機内に墜落（墜落高さ２ｍ未満）し、搬送先の病院で死亡したもの。	219	1	1～9
2015	4	13～14	資材置場に炉（約８００ｋｇ）を降ろそうと、つり上げて旋回したところ、車両積載型トラッククレーンが傾き、横転した。 当該クレーンを操作していた被災者は倒れてきたクレーンの下敷きとなり、病院に搬送されたが死亡した。 なお、アウトリガーは張り出されていなかった。	212	6	1～9
2015	9	15～16	産業廃棄物分別場所にて、他の事業場の労働者が硬質プラスティック製の材を圧縮機へ入る大きさにするため、解体用機械（つかみ機）を使用し、材を折る作業を行っていた。 一方、被災者は工場内の別の場所にて、解体用機械を背に、廃タイヤの金具を外す作業を行っていたところ、解体用機械が折った材の破片が被災者の方へ飛び、被災者の脇腹に激突したもの。	145	4	1～9
2015	9	8～9	被災者が仮置き場で廃棄物の中から段ボールを選別し，これを機械式ごみ収集車の投入口に投入する作業をしていたところ，誤って，機械式ごみ収集車の押込板に巻き込まれた。	221	7	1～9
			被災者は、トラクター・ショベルのバケットに水３００リットル入りのタ			

2015	12	14～15	ンクと噴霧機械が入った金属枠を載せて、これをトラックに積み込むためにバケットを持ち上げたところ、機体が前輪を支点にして前のめりになったため、バケットが機体から外れ、その反動で後輪を支点にして前輪が浮き上がり、さらに前輪を支点にして後輪が浮き上がる動作を繰り返す中、被災者が運転席から投げ出され、機体左前輪の下敷きとなったもの。	141	6	10～29
2015	4	3～4	被災者は、木屑ラインにおいて、木材の破砕機の清掃中、破砕器上部のピンチローラーと下部のローラーコンベアのすき間に入って木屑の取り除きを行なっていたところ、上部ピンチローラーが自重で下降し、ローラーコンベアとの間に挟まれ被災した。同清掃作業では、破砕機を含むライン全体のブレーカーを落としていたが、ピンチローラーの油圧バルブが閉鎖されず、下降防止のロックピンの差し込みもなかった。	169	7	10～29
2015	8	17～18	産業廃棄物の分別作業場において、被災者は、土のう袋に詰め込んだ残土が入ったコンテナを横倒しにして、土のう袋を開封して別のコンテナボックスに残土を移し替える作業を単独で行っていた。 別の場所にいた同僚労働者が、被災者の作業場所に近付いた際に、コンテナ内で意識不明の状態でうずくまっている被災者を発見した。	416	2	10～29
2014	1	10～11	資材置き場にて、作業員がフォークリフトを運転し、アルミ缶をプレスした塊（幅１ｍ×１．２ｍ、高さ２ｍ、重量１ｔ）をコンテナ内に積み込む作業中、被災者が塊の側でフォークリフトを誘導していたところ、塊が被災者側に倒れ、被災者が塊とコンテナ内壁との間に挟まれて死亡した。	222	5	10～29
2014	1	15～16	焼却場敷地内にて、産業廃棄物の選別のため、車両系建設機械（解体用つかみ機）を使用し、廃材（クローラー：推定重量４００ｋｇ）を持ち上げ、被災者を含む労働者２名で廃材に絡まっていた網を解こうとしていたところ、突然に同機械のアームを稼動させるための油圧ホースの一部が破損。アームが下降し、廃材の直下で作業をしていた被災者を直撃した。	145	6	1～9
2014	2	12～13	再生資源受け入れ先にて、被災者と同僚の２名が、塵芥車（パッカー車）後部を開け、回収した廃プラスチックを排出後、同僚が塵芥車後部を閉めた際、被災者が挟まれた。	221	7	10～29

2014	2	14～15	産業廃棄物の中間処理を行う事業場敷地内にて、木製の廃材を集積させる為に車両系建設機械（トラクターショベル）を使用していたところ、付近で当該廃材を搬入してきたトラック及びトラクターショベルを誘導していた被災者が、トラクターショベルと激突し死亡した。	141	6	1～9
2014	3	18～19	古紙圧縮コンベヤー前にて、作業員が機械式ゴミ収集車を操作し、被災者とともに、回収した古紙の荷卸しと上昇させたテールゲート裏に挟まった段ボールの除去作業を終え、当該テールゲートを下降させたところ、被災者が当該テールゲートと当該収集車の後部に挟まれた。	221	7	1～9
2014	3	11～12	ダンプトラックで国道を走行中、センターラインを超え、対向車線を走行していた大型貨物自動車と正面衝突し、死亡した。	221	17	10～29
2014	4	16～17	コンクリート廃材をダンプの荷台に積込み、国道を走行中、下り坂の右カーブにて、車両が横転し、道路わきにある電柱に運転席が激突。運転していた被災者が死亡した。	221	17	30～49
2014	4	9～10	ダンプカー後部のあおりをロックしている楔の１つを取り除かなかったため、荷降ろし位置でダンプアップした際、あおりが開かず、荷が荷台の後部に偏り、ダンプカーが後輪を軸として回転し、ダンプカーがピットに墜落。キャビンがピットの端部に激突し、押し潰され、被災者が運転席内で死亡した。	221	1	30～49
2014	5	22～23	被災者は、破砕設備投入材料搬送用平コンベアのリターンローラーに付着した粉を、ワイヤブラシで清掃中、ブラシとともに腕から胸にかけ巻き込まれ、死亡した。	224	7	10～29
2014	5	14～15	コンベアの上に乗り作業中、コンベアの上に設置している磁選機とコンベアの間でうつぶせになって倒れている被災者が発見された。	224	7	1～9
2014	5	9～	解体用つかみ機で産業廃棄物を小さくし、破砕機に投入しようとした際、産業廃棄物の分別を行っていた被災者が産業廃棄物の中にあった物を取り	145	6	1～

		10	除こうとしたところ、解体用つかみ機の運転手はこれに気付かず、アタッチメントの先が被災者に激突した。			9
2014	6	17～18	被災者は、産業廃棄物の仕分け作業の片付けを行っていた際、有機汚泥処理施設の貯湯槽のマンホール付近にて、仕分け作業のため開口していたマンホールから貯湯槽内に転落し、窒息死した。	416	1	10～29
2014	7	9～10	トラックで走行中、センターラインを越え、トラックと正面衝突した。	221	17	1～9
2014	7	15～16	汚泥処理施設にて、トラックの誘導及び荷台の洗浄作業中、汚水を抜くための蓋を開けていたところ、開口部から洗浄排水ピットに墜落し、溺死した。	713	10	10～29
2014	9	15～16	ダストボックスをフォークリフトに積載し、ボックスを地面から３０ｃｍ程上昇させた状態で前進走行中、前方を歩行中の被災者がボックスの下に巻き込まれた。	222	6	10～29
2014	11	9～10	古タイヤの粉砕を行う作業場にて、起動している粉砕機のブレード部に挟まったタイヤを取り除くため、手すりから身を乗り出し、足で押し出そうとしていたところ、巻き込まれた。	162	7	10～29
2014	11	14～15	被災者ら複数人が、倉庫中２階の端部に木製手すりを設置する作業中、足を踏み外し、約３ｍ下の１階床面へ墜落した。	416	1	10～29
2014	12	13～14	工場内の土砂が保管されているピットの端にて、土砂をダンプに積み出すためのドラグショベルの運転を誘導中、ピットの端から２．５ｍ下のコンクリート地面に墜落し、死亡した。	418	1	1～9
2013	10	14～15	産業廃棄物処理業の工場内にある、廃コンクリート破砕機の選別工程部分（ピッキングエリア）の内側に付いたコンクリートを電動ピックで斫って（はつって）取り去った後、蓋（ふた）を閉じて密閉するため、地上高さ約４．３メートルの通路付近で蓋のボルト締め作業を行っていた際、地上	162	1	30～49

			に墜落した。尚、直接の目撃した者はいない。			
2013	2	14～15	３５トントレーラーの荷台に積んでいた鉄スクラップを、アタッチメントを換えたドラグショベル２台（１台はグラップル、１台はリフチングマグネット）を用いて地上へ下ろしていたところ、荷台上に立ち入った当該トレーラーの運転者が、このリフチングマグネットの下敷きとなった。	212	7	10～29
2013	11	9～10	製鋼所で出た乾粉（副産物）をバキューム車で回収し、リサイクルセンターのリパルパー槽に降ろしていた際、バキューム車の後部ハッチを開け、乾粉を排出し、出きらなかったエプロン部の乾粉をほうきで掃き出していた被災者は、誤って閉じられたハッチと車体に挟まれた。	221	7	10～29
2013	2	9～10	スクッラップ回収のため、トラックを運転して鉄筋コンクリート造建築物解体工事現場へ赴き、トラックから降りて鉄筋くずを拾い集めていた被災者は、重機の履帯に巻き込まれた。	149	7	10～29
2013	10	13～14	産業廃棄物処理施設において、廃プラスチックを回収するため、廃プラスチックストックヤードで積込作業を終えヤード内を清掃していたところ、コンクリート製仕切り壁の上部（高さ２．１m、幅０．２m）から足を滑らせ地面に墜落した（当日雨天、保護帽着用）。	418	1	30～49
2013	3	9～10	産業廃棄物中間処理場において、廃棄物集積場からごみ収集車への廃プラスチック類積み込み作業中に発生した。被災者は、工場長と２人で、集積廃棄物からプラスチック類を選別しながら収集車後部の投入口に投げ入れる作業をしていたところ、投入口に設けられた回転板に上半身を巻き込まれた。工場長が回転板を反転させるボタンを押したが、被災者は咽頭部をひどく損傷しておりまもなく死亡が確認された。	221	7	1～9
2013	12	7～8	敷地内を徒歩にて移動中、地面に落ちていた物を拾おうとしてしゃがみかけたところ、バックで走行してきた１１ｔトラッククレーンにひかれた。	212	7	1～9
2013	5	16～17	産業廃棄物中間処理場で、建築廃材を入れたコンテナをトラックの荷台に載せようとして、後進するトラックを誘導していた被災者は、トラックとコンテナの間に挟まれて死亡した。	221	7	1～9

2013	11	15～16	プラスチック製品などの廃品を破砕機で断裁中、廃品が詰まったため取り除こうとしたところ、機械に巻き込まれて死亡した。	162	7	1～9
2013	12	11～12	処理施設棟の屋根上に溜まった落ち葉を除去するため、建屋南側にある生物脱臭装置のステージ上（高さ３．１ｍ）から建屋の屋根上（屋根の高さ５．５ｍ）に登る際、掛け渡したはしご（長さ３．６ｍ）から、誤って墜落した。	371	1	1～9
2013	7	15～16	被災者は、廃棄物収集のため車両を運転中であったが、助手席にいた同僚が運転操作の異変に気づき、運転を交替し、被災者を助手席に移したところ、容態が悪化したため病院に搬送し、熱中症と診断された。	715	11	10～29
2013	9	2～3	被災者は、廃プラスチック等を原料とするリサイクル燃料の製造ライン（ＲＰＦライン）の機械操作を担当するオペレーター（夜勤者）であった。災害発生時、当該機械の異常を知らせるアラームが鳴り止まないことに気が付いた社員が現場責任者に報告し、現場責任者が確認したところ、同機械のコンベア部の側面ハッチが開放しており、コンベアの内部に身体全身が巻き込まれた状態の被災者を発見した。	224	7	30～49
2013	1	9～10	当該作業場の木屑プラントにおいて、被災者と重機のオペレーターの２名で作業を行っていたところ、被災者が本来の持ち場から離れたまま戻ってこなかったため周辺を探したところ、コンベヤー上に倒れている被災者が発見された。	169	7	30～49
2013	1	5～6	被災者は、ゴミ収集先の物品納入口脇にある地下駐車場出入口付近に、自ら運転していた塵芥収集車を止め、ゴミ収集作業に取りかかっていたところ、下り側に当該塵芥収集車が動き、塵芥収集車の右後部側面と側壁との間に体を挟まれ、胸部圧迫により窒息死した。	221	7	10～29
2013	9	10～11	被災者は、集品センターに入庫し廃棄物収集を開始した（当日は、４０袋ほど回収する予定であった）。集品センターのパートがゴミ袋を集積所に出しに来た際、パッカー車に巻き込まれていた被災者を発見した（被災者	239	7	30～49

			は足だけが見える状況であった）。			
2013	4	11～12	パッカー車の助手である被災者は、クリーンセンター内のごみピット内（深さ約１５メートルであるが、ごみが８メートルほどたまっていたため、実質深さ７メートル）に墜落し、その後、被災者の上に圧縮されたごみ２トンが投入され、窒息死した。	221	6	30～49
2013	7	7～8	廃材等の置場内において、機体重量が約２．３トンのドラグショベルのショベルを解体用つかみ機のアタッチメントに付け替えた車両系建設機械を用い、木造新築工事で発生した廃棄物を、積載荷重が３トンのダンプトラックへ積み込む作業中、この車両系建設機械が旋回した際、ダンプトラックの廃棄物の上に置かれた合板上で高さが１．９１メートルの箇所で、保護帽を着用せずに作業してた労働者が土の地面に頭部から墜落した。	529	1	10～29
2013	6	16～17	鉄スクラブ処理工場において、ギロチン（切断）加工時に切断された金属片が切断機と搬送コンベアの間で時々目詰まりを起こすため、被災者が担当者からの指示により、切断機の裏に詰まり具合を確認しに行った。その後、切断機の裏から、被災者が頬等を切って出血しながら出てきたのをクレーンオペレーターが発見し、救急要請を行った。しかし、顔面骨骨折・出血性ショックにより死亡した。	169	6	10～29
2013	11	10～11	車両により資源ごみの回収作業をしていたところ、車両を運転していた同僚が廃棄物の回収を終え、車両を発進させたところ、次の集積所に向かっていた被災者を轢いてしまった。	221	17	30～49
2013	8	2～3	産廃を焼却炉などで燃焼しやすい塊に加工する事業場での労働災害。被災者は、アームロール式のコンテナ（フックアームを使ってトラック後部に引っ張り上げる方式のコンテナ、片側底面にのみコロが付いている）に製品を積み込むため、フォークリフトを使用し後ろ手にコンテナをけん引していたところ、バランスを崩しフォークリフトが横転、下敷きとなった。	222	2	30～49
2013	6	11～	コンクリート殻の破砕作業を、被災者を含む３名で行っていたところ、コンクリート殻の投入口であるホッパー近くにあるジョークラッシャー（圧	162	7	10～

		12	砕機）の開口部から被災者が転落し、圧砕部に挟まれ死亡した。			29
2013	12	15～16	発注者の資材置き場に置かれた廃棄物（コンクリートブロック等、通称「ガラ」）を分類する作業中、バックしてきたドラクショベルの履帯（クローラー部）に轢かれた。	142	7	1～9
2013	3	14～15	中間処理施設において、木屑を処理するラインの第１クラッシャーの補修作業中、補修したコンベアの試運転を行うため同僚が配電盤の電源スイッチを入れた際、クラッシャー内部でスクリューを溶接補修していた被災者が巻き込まれた。	162	7	1～9
2012	12	16～17	被災者は産業廃棄物の処理場内において、ドラグ・ショベルを用い瓦礫の山の上でアームで破砕機をつり上げ作業中、ドラグ・ショベルが3.4m下方に転落し、ドラグ・ショベルのキャビンと瓦礫の間に挟まれた。	142	1	1～9
2012	9	10～11	敷地内でセメントの原料をプラントに入れる作業をしていた被災者は、別の労働者が運転するフォークリフトに轢かれた。なお、フォークリフトは生コンを入れるホッパーを運搬中であったが、その前方を被災者が横切った。	222	6	1～9
2012	5	9～10	被災者は、事業場に設置してある鉄屑裁断機の点検作業を終わらせ事務所に戻るため、他の作業者が運転する移動式クレーン（車両系建設機械のバケットをリフティングマグネットに交換したもの）の後方を移動していたところ、移動式クレーンが旋回し、移動式クレーンのカウンターウエイトと集積された鉄屑の間に挟まれた。	212	7	1～9
2012	5	9～10	被災者は一般廃棄物の収集作業のためバッカー車を運転し、商業施設に到着し段ボールの積み込み作業を単独で開始した。同僚労働者が可燃ごみ、生ごみの収集のため、別の車両で当該商業施設に到着し積込み作業を終えた後、被災者の不在を不信に思いバッカー車の投入口を覗き込んだところ、奥に巻き込まれているのを発見した。	221	7	100～299
2012	11	8～	客先事業場木材チップ仮置き場において、被災者はトラックにて木材チップを搬入した後、トラックを降りて木材チップ仮置き場に行き、チップサンプルを採取していたところ、客先労働者が運転し、後進しているトラク	141	7	10～

		9	ター・ショベルに轢かれた。			29
2012	10	10～11	被災者は廃材（木材）を粉砕機を使用し粉砕していた。作業内容は、グラップルで廃材を粉砕機に投入し、粉砕された廃材はマグネットを装着した重機で混在している金属を取除き、粉砕された廃材を山に寄せていた。作業開始後しばらくして、グラップルのオペレーターである被災者の姿がなかったので捜したところ、粉砕機内に巻き込まれているのを発見された。	162	7	1～9
2012	6	17～18	自社駐車場内において、大型バキューム車のタンク上部マンホールから高圧水ホースで散水しながら、内部の堆積汚泥等の洗浄を実施した後、内部に入って洗浄を続けようとした被災者が内部に入ってしゃがんだところ、突然倒れた。	714	12	1～9
2012	3	17～18	被災者はごみ収集車（パッカー車）内のダンボールを後方から排出するため、後方のテールゲートを上げダンブアップし排出、確認の後、テールゲートを下げ後方に回り、回転板等を起動させたところ、回転板に巻き込まれた。	221	7	30～49
2012	5	15～16	昇降設備（校舎3階バルコニーから屋上へ昇降する設備）の解体作業中に、被災者は校舎2階バルコニー上に設けた足場の1層目（2階バルコニーGLから1.7mの高さ）から墜落し、脳挫傷のため死亡した。なお、被災者は保護帽を着用しておらず、墜落防止措置も講じられていなかった。	411	1	1～9
2012	1	12～13	フォークリフト運転の技能を有しない労働者が、災害発生事業場でフォークリフト（TCM FD-30T3）を運転し、廃材仮置場からリサイクル用廃材置場に木屑等を構内運搬していた際、回転式アタッチメントを使って縦1m、横4mの鉄製の籠を縦向きにしていたが、当該籠が爪から外れて落下し、周辺で分別作業をしていた被災者が下敷きになり死亡した。	222	4	1～9
2012	12	8～9	敷地内で、生ゴミ回収用の保冷車のフロント硝子を拭いていた被災者は、背後からバックしてきた同僚が運転する車両積載型トラッククレーンとの間に挟まれて死亡した。	212	6	1～9

2012	10	8～9	被災者は産業廃棄物中間処理施設であるリサイクルプラント内で、リサイクルプラントを起動させる作業に従事していた。当該プラントの異常ランプが点灯しているのを代表者が発見し、プラント内を確認したところ、ベルトコンベアに挟まれている被災者が発見された。	224	7	1～9
2012	4	16～17	採石場から10ｔダンプトラックで砕石を資材置き場に運搬し、積荷を降ろした後、ダンプトラックの荷台が上がったままの状態で荷台下の修理をしていた時に安全レバーが不完全であったため、荷台が下がってきて挟まれた。	221	7	1～9
2012	12	12～13	建屋集塵機の清掃の際、被災者は集合ダクト内の粉じん堆積状況を確認するため当該ダクト内に入り確認していたところ、集合ダクトから繋がる垂直ダクト（高さ約15m）の開口部から墜落した。	391	1	10～29
2012	3	8～9	トラックを運転し、同僚とともに事業所から同社の中間処理工場に向かっていたところ、片側3車線の緩いカーブで道路左脇の縁石に乗り上げ、街路樹数本をなぎ倒しトラックの前部が大破した。その反動で、運転していた労働者と助手席に座っていた労働者が車外に投げ出され死亡した。	221	17	10～29
2012	3	8～9	トラックを運転し、同僚とともに事業所から同社の中間処理工場に向かっていたところ、片側2車線の緩いカーブで道路左脇の縁石に乗り上げ、街路樹数本をなぎ倒しトラックの前部が大破した。その反動で、運転していた労働者と助手席に座っていた労働者が車外に投げ出され死亡した。	221	17	10～29
2012	4	9～10	被災者は自動車解体業の事業場敷地内で、トラックに古タイヤを積み込む作業を行っていた。解体した軽トラックの荷台をパレットの代わりとしてタイヤを積み、フォークリフトにより持ち上げ、トラックの荷台に寄せた。被災者は、軽トラックの荷台の上でタイヤをトラックへ移し替えていたところ、軽トラックの荷台が転倒し、荷台とともに地面に墜落し頭部を強打した。	222	1	1～9
2012	7	9～10	浄化設備の汚泥槽のくみ取り作業中、被災者は何かの理由で、当該汚泥槽内部に転落し、死亡した。	414	1	10～29

2012	10	11～12	被災者は圧縮機を用いて産業廃棄物（廃プラスチック）を圧縮する作業に従事していた。高さ約3mのホッパー付近に詰まった廃棄物を取り除こうとしたところ、誤って圧縮機内のプレス部分に転落し、廃棄物とともにはさまれた。消防に通報し救出されたが、その場で死亡が確認された。	169	1	1～9
2011	3	9～10	被災者は、前日に回収した古紙の仕分け作業を行った後、駐車場に駐車していた車両の入れ替えを行うため、パッカー車（最大積載量２ｔ）を自ら運転して移動させた後、次に移動させる予定であったトラックに向かいパッカー車の後方を歩いていたところ、後退してきた他の労働者が運転するトラック（最大積載量４ｔ）とパッカー車の間に挟まれたもの。	221	7	30～49
2011	8	9～10	安定型産業廃棄物最終処分場の水質検査を受けるための準備作業を行っていた被災者が、酸素欠乏状態（調査時、約２％）にあった堅型集排水塔（直径１．４m、深さ６．８m、浸透水が底部から約０．５m溜まった状態。）の内部で倒れていたのを発見されたもの。なお、被災者の直接死因については溺死であった。※堅型集排水塔は、浸透水の水質検査を行うために設けられた立坑である。	514	12	1～9
2011	4	16～17	自社の資材置き場において、水上バイク（重量約２６５ｋｇ）を移動させるため、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重２．９ｔ）のスクラップ・グラップルに取り付けたワイヤロープを水上バイクのハンドルに掛けてつり上げ、所定の位置まで旋回させたところ、水上バイクのハンドルの根元が折れ、高さ約５mの位置から水上バイクが落下。誘導を行っていた被災者に当たり、転倒して、振動ふるい機の角に頭部をぶつけた。	372	4	30～49
2011	12	9～10	被災者は、解体工事に伴うコンクリート廃材を１０ｔダンプで処理施設まで運搬、廃材搬入の受付をするためダンプを降りてダンプ後方に移動したところ、停車中のダンプが後退し被災者に激突、死亡したもの。ダンプ停止箇所は、下り勾配の傾斜地（約４度）であった。	221	6	50～99
		15	災害発生場所である当該事業場の資材置き場前の道路を、被災者が所属する事業場の労働者が車で通りがかったところ、ダンプトラックが右に横転しているのに気づいたので状況を確認したところ、当該事業場の労働者			10

2011	4	～16	が、横転したダンプトラックの開けられた右側の窓の上部と地面との間に頚部を挟まれた状況で発見された。その後消防により救出されたが死亡した。災害発生状況を見た者はいない。	221	2	～29
2011	7	14～15	被災者が、バケットアタッチメントを装着したフォークリフトを運転し、搬入されたリサクル用廃棄物の荷寄せ作業中、バケットを上げたまま後進し左後方へ旋回したところ機体が傾き、被災者が運転席から飛び出た（あるいは飛び出した）ところへ機体が転倒、ヘッドガードの枠に胸部から首を挟まれ、救急搬送されたが同夜に死亡したもの。	222	2	10～29
2011	3	8～9	資材置場で清掃作業中の被災者が動き出したフォークリフトとコンテナにはさまれて負傷、死亡した。詳細は不明だが、災害直前に他の作業者が作業の支障となっていたフォークリフトを運転して、移動、停車させ、エンジンを停止せずに運転席を離れたところ、当該フォークリフトが動き出したという。	222	7	1～9
2011	6	12～13	昼休憩（１２時～１３時）を終えて、産業廃棄物の圧縮梱包ラインによる作業を再開しようとした労働者が、共同作業者である被災者の姿が見えないことに気付き、他の労働者と共に探したところ、圧縮機のシュート付近（１階）の廃棄物の中に埋もれた状態となっている被災者を発見した。 死因は窒息による。	391	1	50～99
2011	9	15～16	ドラグショベルのバケットにあるフックにワイヤーロープを掛け、鉄板（約３ｍ×約１．５ｍ板厚約２ｃｍ）を吊ろうとしていたところ、バケットが右旋回したため、ワイヤーロープを掛けていた鉄板が倒れ、被災者がはさまれたもの。	142	6	1～9
2011	1	8～7	工場に搬入された廃棄物であるタンクの一部を非鉄金属と鉄に分割切断するため、被災者（６１歳、男、平成１４年入社のフルタイムパート労働者）が溶解アセチレン容器及び酸素容器を用いて、ガス溶断作業中、長靴から上を焼身し、死亡したもの。トーチ（切断器）自体は火口から数十センチ程度を焼いた。	513	11	50～99

2011	4	11～12	被災者は、積載荷重１１ｔダンプトラックで高速自動車道を走行中、中央分離帯を乗り越え、反対車線のガードレールを突き破り、隣接して設置されているゴルフボールの防球ネットの鉄柱に衝突し、頭部を強打した。また、事故現場にブレーキ痕は無かった。被災者は、病院で治療を受けていたが７月２１日午前０時０分に死亡した。	221	17	10～29
2011	12	15～16	被災者は、２トントラックを運転し、市内の事業場へ荷（製品材料）の積み込みに行く途中、渋滞で停車していたトラックに追突したもの。	221	17	50～99
2011	2	10～11	ベルトコンベアの試運転中に当該コンベア周辺の作業台にいた被災者が当該コンベアのテンションロールとベルトの間に足から巻き込まれ、死亡した。	224	7	10～29
2011	11	9～10	廃棄物処理取引先の工場の出入口において、レールの上に乗っている工場の鉄製の扉を閉めようとしたところ、閉める扉を間違えて、手前にある短いレールに乗っている扉（高さ４．２７ｍ、幅２．４４ｍ、重量３５０ｋｇ）を奥まで動かそうと勢いをつけて押したため、上部に取り付いているストッパーを破損し、当該扉がレールから外れ倒壊し、それを支えようとして当該扉の下敷きとなった。	419	5	50～99
2011	12	15～16	廃木材から木炭を製造している工場において、木炭貯蔵サイロの内部を清掃するためサイロ内の貯蔵木炭を取り出す作業中、木炭が詰まって取出口から出てこなかったため、詰まった木炭を解そうと作業者１名がスコップを携えてサイロの中に立ち入ったところ突然意識を失って倒れ、倒れた作業者を救出しようとサイロの中に立ち入った作業者も同様に意識を失って倒れたもの。一酸化炭素中毒により１名が死亡、１名が入院治療となった。	714	12	10～29
2011	3	16～17	工場内で仕分けされた産業廃棄物を最終処分場に搬出するため、被災者の誘導の下、ダンプトラック（最大積載量８９００ｋｇ）を工場搬出入口から工場内に後進にて進入させていたところ、被災者が同車両の右側後輪に頭部を轢かれ被災したもの。	221	7	50～99

2011	12	6～7	飲食店のゴミを収集するため、パッカー車を駐車場に停車し、当該車輌から降りていたところ、当該車両と飲食店の外壁との間に挟まれているところを発見されたもの。通行人が発見した時には、後退のブザー音が鳴っていたが原動機は止まっていた。単独作業で、停車した場所は平坦であり、当該車輌はマニュアル車であった。	221	7	50～99
2011	11	11～12	廃棄物処理施設において、不燃ゴミの運搬を行っていたショベルローダーが後退したところ、付近を歩行していた被災者がひかれ、その後、収容先の病院にて死亡した。	225	7	10～29
2011	2	15～16	クレーン付貨物自動車で建設現場のゴミかごを回収し、自社の土場でゴミの分別後、同貨物自動車を所定の停車位置に止めようとしたが、停車位置を超え約４０センチの段差を下りた衝撃で、被災者はハンドルに腹部を強打した。	212	3	1～9
2011	11	19～20	事業場構内の廃棄物処理施設二号炉の二次燃焼炉下部のピット内において、灰出しコンベヤー下部に入って倒れていた合板（コンパネ、灰を一箇所に集めるためのガイド）の復元作業を二人で行い、その後一人で屈んだ姿勢で位置の微調整を行っていたところ、コンベヤーに付いている仕切り板（レーキ）とコンベヤー架台のアングル間に頭部をはさまれ、死亡した。	224	7	50～99
2011	11	20～21	汚泥等を乾燥させるプラントのオペレーターである被災者は、濁水を貯留しておく調整池で溺死しているのを発見されたもの。当該調整池の周囲には高さ約１．５メートルの鉄製フェンスが設置されている。被災時の目撃者はいない。	418	10	10～29
2011	9	11～12	被災者は、ごみ焼却施設のプラットホームで、機械式ごみ収集車で運んできたごみを施設のごみピットに棄てる作業の補助として従事していた。 テールゲートを上げた状態でピット内にごみを棄てた後、運転手が被災者から合図を受け、テールゲートを下げたところ、被災者の上半身がテールゲートとごみ収集車との間に挟まれた。そのため運転手がテールゲートを上げたところ被災者がごみピットに墜落し死亡したもの。	221	7	1～9

2010	12	11～12	片側１車線の県道で大型トラックを運転中、先行車４台を追い越すため、先頭から２台目の被追越車（トラック）の右側を通過していたところ、当該車両も追い越しをかけたため、自車の左側面に被追越車が接触したことから、その反動で対向車線わきの電柱に激突し、死亡した。	221	17	10～29
2010	11	10～11	被災者は、折り畳んで立て掛けた脚立の天板（高さ１．４０ｍ）の上に立って、３段積みの１番上にある廃ペットボトルが詰められたフレキシブルコンテナバッグ（高さ２．７４ｍ）の投入口を、吊りベルトで縛る作業をしていた際に墜落したもの。なお、脚立は被災者が作業していたフレキシブルコンテナバッグの２段目に立て掛けてあった。	371	1	10～29
2010	11	16～17	自社のリサイクル工場において、ダンプトラックを運転して、荷台の残土（泥等）を泥乾燥ピットに降ろす作業を行っていた被災者が、ダンプトラックごと当該ピット（深さ６ｍ）に転落し、搬送先の病院で死亡したもの。トラック荷台後部のあおりを固定した状態で荷台をダンプしたことにより、泥が落ちずトラックがバランスを崩したとみられる。	221	1	50～99
2010	11	0～1	国道を走行中に、運転操作のミス、若しくは居眠り運転により走行車線をはみ出し、反対車線を走っていた中型トラックと正面衝突してしまったもの。	221	17	10～29
2010	11	7～8	産業廃棄物の廃プラスチック（殆どが分別されたビニール類）を傾斜コンベアーで搬送し、ホッパーにため、破砕機で破砕し、圧縮梱包する作業において、廃プラスチックが傾斜コンベアー出口で詰まったため、ホッパー内部にホッパー点検口から被災者２名が入り、詰まった廃プラスチックを取り除く作業をしていたところ、その大量の廃プラスチックが落下して被災者２名が埋まり、窒息死した。	529	4	10～29
2010	11	7～8	産業廃棄物の廃プラスチック（殆どが分別されたビニール類）を傾斜コンベアーで搬送し、ホッパーにため、破砕機で破砕し、圧縮梱包する作業において、廃プラスチックが傾斜コンベアー出口で詰まったため、ホッパー内部にホッパー点検口から被災者２名が入り、詰まった廃プラスチックを取り除く作業をしていたところ、その大量の廃プラスチックが落下して被	529	4	10～29

			災者２名が埋まり、窒息死した。			
2010	10	8～9	トラック（積載荷重２．６ｔ）の荷台に積まれた荷（サッシを立て掛けて置いておくための鉄製のラック、縦４．５m、横７１ｃm、高さ３４ｃm、重さ７０ｋｇの１０個重ねを３列、合計３０個）を固定していたワイヤーの荷締め機を緩めて外したところ、荷が崩れ落ち、落下した荷の下敷きになって死亡したもの。	521	4	1～9
2010	10	12～13	分水工場のＡ槽、Ｂ槽それぞれの廃液を汲み上げ、タンクローリーで運んできたアルカリ性混合廃液（砒素、シアン化合物等）をローリーに繋いだホースで燕工場の地下ピット（反応槽）に移す作業中、ローリーの上に昇りマンホールを開け残量確認などしていたところ、ローリー内部の廃液が何らかの反応でアルシンガスを発生し呼吸保護具を装着していなかったため、具合が悪くなり地上でうずくまっているのを発見され、死亡した。	514	12	50～99
2010	10	16～17	タイヤリサイクルセンターの作業場内においてダンプトラックから下ろした回収済の切断タイヤを破砕機にて社長が整理しようと前進したところ、右前の作業半径内に立っていた被災者が破砕機のクローラにひかれ、死亡したもの。	149	7	10～29
2010	9	14～15	事業場構内にてフォークリフト(最大荷重３．５ｔ)の運転作業に従事していた労働者が、フォークリフトのマストに取り付けたアタッチメント下部と地面との間に頭部を挟まれているところを発見され、その後死亡が確認された。当該フォークリフトはマスト昇降用の油圧ホースが破断し作動油が漏れていた。被災者が単独で作動油の漏れを点検中、アタッチメントが被災者の上に降下、頭部を挟まれたとみられる。	222	7	50～99
2010	7	11～12	廃材を選別するコンベアのラインで作業中、ベルトコンベアを停止せずに作業を行ったため、磁選機のローラー部に右腕が巻き込まれ、死亡した。	224	7	30～49
2010	7	16～	廃棄物のリサイクルセンター屋内作業場において、ベルトコンベアー上を流れる廃棄物の選別作業を行っていた。終業時間前に作業を終了させ、保護帽を掛ける場所で倒れた。病院に搬送されるも同日熱中症により死亡し	715	11	10～

		17	た。当日１６時の気温は３５．４℃（気象庁ＨＰ）。			29
2010	7	8～9	産業廃棄物処理工場内において、運転席付きの天井クレーン（つり上げ荷重８．７５ｔ）を使用し、くず鉄を移動する作業を行おうとしたところ、付近に積み上げてあった破砕前の自動販売機（積み上げた高さ約５．５ｍ）に、同クレーンのフックに取り付けたリフティングマグネットが接触したため、同自動販売機が崩落し、付近で作業中だった労働者２名のうち１名がその下敷きとなり死亡し、もう１名が軽傷を負った。	211	4	1～9
2010	6	9～10	事業場が管理する道路（こう配約１０度、幅約１０ｍの舗装路）の中央付近に落下していたコンクリート塊をトラクター・ショベルを使用して撤去する作業中、下り方向へ後進させたところ、路肩から車両とともに約３０ｍ下の斜面へ転落した。誘導者はいなかった。	141	1	10～29
2010	5	17～18	産業廃棄物処理施設内道路清掃のための散水車に施設内調整池において給水作業中、散水車が後退しはじめ、給水作業を行っていた被災者が散水車と擁壁間に挟まれた。なお、当該作業は１人作業であったため、災害発生状況の詳細は不明。作業場所は調整池への取付け道路でスロープ（約８度）になっており、車止めの設置等散水車の逸走防止措置を講じていなかった。	229	7	1～9
2010	4	11～12	被災者は事業場敷地内において、車両積載型トラッククレーンを使用し、廃材の石膏ボードを当該クレーンの荷台に積み込み、処理場へ運搬する予定であった。積み込み作業終了後、使用していた当該クレーンのアウトリガーを一番高い位置にセットした状態で、何らかの理由により当該クレーンの車体下部に潜り込んでいた。その後、クレーン駆動用のシャフト部分に右腕が巻き込まれている状態で発見されたが、死亡が確認されたもの。	212	7	30～49
2010	3	14～15	被災者は、次の収集運搬作業等の準備のため積載型トラッククレーンを使用して１人で作業を行っていたが、その際アウトリガーを最大に張り出しをせず、中間張り出しの状態であったこと、また、作業場地面に水たまりがあり、地盤が軟弱な状態にもかかわらず敷鉄板等の措置を講じないまま	212	7	10～29

			使用していたことで、収集箱をつり上げた際にクレーンが転倒し、運転席と直近にあった別の収集箱との間にはさまれている状態を発見された。			
2010	3	8～9	トラックに積み込んだアルミリサイクル原材料が走行中に落下するのを防止するため、荷台の上に乗り、積み荷の状態を確認していたところ、足を滑らせ墜落した。	221	1	10～29
2010	3	15～16	工場内で、鋸屑製造機に材料（木材）を送給する作業を１人で行っていた被災者が、同製造機の送給設備の駆動チェーンに左腕を巻き込まれた状態で発見された。被災者は救出されて病院に搬送されたが死亡が確認された。	139	7	1～9
2010	3	3～4	配送先に向かうため、大型トラック（車両総重量２２ｔ）で国道（片側２車線）を走行中に、運転の操作ミスにより、横転して中央分離帯に激突した。被災した運転手は頭部等を強打して搬送先の病院で死亡したもの。	221	17	10～29
2010	2	9～10	フラフ燃料（紙くず、繊維くず、廃プラスチックをフイルム状に破砕し燃料化したもの）製造工程において、原料（廃プラスチック）をはい積みしていた近くで清掃作業中の被災者に、はい（１．２ｍ×１．２ｍ×０．９ｍ、重さ３４０ｋｇ）２個が落下し、当たったもの。	611	4	10～29
2010	2	23～24	粉砕機直下に設置された粉砕後の木屑を運搬するフライトコンベア内に、１人で深夜作業を行っていた被災者が、何らかの理由で巻き込まれた状態で、出社した協力会社作業員に発見されたもの。	416	1	100～299
2010	1	9～10	被災者ら派遣労働者３人は作業場（平屋）でドラム缶から汚泥を取り出し石灰と攪拌する作業に従事。被災者はドラム缶８個のふたと中のビニル袋の開封し終えた時に、同僚がフォークリフトで開封済ドラム缶１個を回転式クランプで挟み運搬してきたので後ろに下ったところ、汚泥と石灰の攪拌作業を行うドラグショベルが被災者に気付かずに１．１ｍ後退したため、被災者は右側クローラに両足を腰付近まで轢かれたもの。	142	7	100～299
		10	工場内において、廃棄物（石膏ボード等の廃材）を重機（ドラグショベルの先端をハサミに付け替えたもの）を使用して片付けていた。気づくと重機を運転していた被災者が運転席とアームの隙間に上半身を挟まれて死亡			10

2010	1	～11	したもの。被災者が何らかの理由でアーム側に身を乗り出し、挟まれた。重機は中古で購入した当初からアーム側（右側）の全面ガラスはなく、そのまま使用していた。	149	7	～29
2009	7	15～16	工場内にて、焼却炉の配管メンテナンスのため、配管を取り外し後の取付け（ボルト締め）作業中に、高さ約5.1mの足場の上にいた被災者が墜落した。	411	1	1～9
2009	1	13～14	破砕処理機で石膏ボードの破砕作業を一人で行っていた作業者が何らかの原因で破砕部（回転部）に詰まった金属片等を取り除くため回転部に手を入れ巻込まれ、被災者の悲鳴で他の作業者が機械を停止させたが、巻き込まれた作業服によって身体を圧迫され被災した。なお、回転部の覆いは破損により当時取り外されていた。	162	7	10～29
2009	5	11～12	被災者は、同僚3人と貨物用コンテナ横に置いていたバンパー等の廃材を片付けていたところ、当該コンテナに部分溶接して立てかけてあった鉄板（縦2m×幅6m×厚さ1cm×重さ約1,120kg）が倒れてきて、鉄板と廃車の間にはさまれた。	521	5	10～29
2009	1	12～13	木材チップを粉砕し、おが屑にする工場において粉砕機からおが屑貯蔵庫へ運ぶベルトコンベヤー最下流のプーリー（幅38cm、径24cm、高さ3.3m）部分にはさまれた。被災者はフォークリフトに取り付けたバケット（アタッチメント、高さ1.78m）に上がり、稼動中のベルトコンベヤーの点検又は補修等を行っていた。	224	7	10～29
2009	5	8～9	被災者は、工場出入口のシャッターボックス上部の鳩の巣を確認のため、フォークリフトに挿入したパレット上に搭乗し、付近までリフトアップしてもらった。そこから、被覆電線に足を掛けのぞき込もうとしたところ、たるみ防止用に止めていたクリップが外れ、バランスを崩し約4m下の床上に転落した。	222	1	10～29
		16	被災者は、2tトラックで回収してきた資材（木材の平板等）を手作業で積み卸したあと、同僚への連絡のため2tトラック前方を歩いていた。2tト			10

2009	9	～17	ラック（勾配約2度の傾斜地に止めていた）が動き出したため止めようとしたが、そのまま2tトラックに押されて、段差のある約1m下で2tトラックの下敷きになった。	221	7	～29
2009	4	9～10	客先構内にて、低床ジブクレーン廃棄のため、移動式クレーンを用いて搬出作業を行っていた。廃棄機械はベースフレームの上に旋回フレームが載り、その上に起伏ウインチ、巻上ウインチ、制御盤があった。起伏ウインチ、巻上ウインチを搬出し、制御盤のみになった際、旋回フレームのバランスが崩れ、ベースフレームからずり落ち、同フレーム上で玉掛け作業補助を行っていた被災者が約1.9mの高さから墜落した。	521	1	1～9
2009	6	8～9	作業者3人（被災者を含む）で異常停止したコンベヤーを復旧させるため、コンベヤーの開口部分から搬送物（チップ状の木片）の除去作業をしていたところ、他の作業者がコンベヤーを起動させたため、被災者がコンベヤーの稼働部分と開口部分の枠との間にはさまれた。	224	7	10～29
2009	10	11～12	事業場の廃プラスチック選別場において、中二階（高さ約2.1m）で脚立（高さ約1.4m）に乗り、壁面上部の隙間を布で塞ぐ作業をしていた被災者が、中二階から地上のコンクリート床に墜落した。	371	1	10～29
2009	6	8～9	産業廃棄物中間処理施設内において、被災者と重機オペレーターが重機（グラップル）を使用してステンレス製タンク（重量約310kg）をつり上げ、コンテナボックスに投入する作業を行っていた。その際、被災者がつり上げられたタンクの位置を調整していたところ、重機のフックに玉掛けしていたワイヤロープが外れ、落下したタンクにはさまれた。	212	4	10～29
2009	5	17～18	選別ヤード内にて、ダストコンベヤーの周囲で清掃作業を行っていたところ、当該コンベヤーに巻き込まれ、被災した。救急車にて病院に搬送されて手術を受けたが、死亡した。	224	7	10～29
2009	1	23～24	中型貨物自動車で高速道路を走行中、緩やかな左カーブを曲がりきれず左壁面に衝突し、はずみで車体が数回回転して中央分離帯に激突した。助手席の被災者が死亡し、運転者が重傷となった。	231	17	30～49
		12				10

2009	8	～13	建築用廃材を破砕機にて破砕作業において被災者は、破砕機コンベヤー付近の清掃中、テーブルプーリーに身体をはさまれた。	162	7	～29
2009	3	11～12	トラックにて木くず等廃棄物を産業廃棄物処理場に運搬してきていた被災者が、産業廃棄物処理場所属作業者の運転するドラグ・ショベルにひかれた。被災者はひかれる直前までトラックの荷台から木くずの積みおろし作業を行っており、ドラグ・ショベルの走行範囲内に立ち入る作業はなかった。なお、ドラグ・ショベルは積みおろされた木くずの整理作業を行っていた。	149	6	1～9
2009	8	17～18	焼却設備の煙道保温材に錆による腐食が認められたため、鋼板を巻きつける補修作業中、東側半面のボルトの取付が終了し、西側半面のボルト取付のため、東側歩道を移動し、煙道北側部分より西側の点検台に移動しようとしたところ、誤って足を滑らし、水タンク上部（高さ約7.65m）から地上に墜落した。	417	1	10～29
2009	12	1～2	被災者は、ペットボトルのリサイクル機械へ使用済みペットボトルを供給する作業を行っていたところ、ホッパー内に滑り落ち、這い上がることができない状況で、動き出したコンベヤーにより移動させられた後、機械の隙間に巻き込まれた。	224	7	1～9
2009	9	14～15	被災者は、商店の土場にてトラックからH形鋼（長さ4.5m×幅0.5m×高さ0.2m）の荷降ろし作業中、移動式クレーンでつり上げた同鋼材を高さ3.0mの位置に静止させていたところ、同鋼材が回転したため以前から積み上げられてあった他の鋼材に激突し、この勢いで倒れた鋼材（総重量4.16t）の下敷きになった。	521	5	10～29
2009	6	8～9	被災者は、ゴミ収集車を運転して災害発生現場のゴミ置き場に停止させ、同僚2人とともにゴミの収集を行っていたところ、ゴミ収集車が後進してきたため、これを止めようとゴミ収集車の後ろに回り込み、塀との間にはさまれた。ゴミ収集車のエンジンは停止されておらず、ギアはニュートラル、サイドブレーキを引いていたが、車止めは使用されていなかった。現	221	17	100～299

			場の傾斜は約3度であった。			
2009	5	14～15	鉄筋コンクリート廃材から再生資材を製造する作業において、被災者は、プラントで小割りされた廃材から鉄筋を取り除くため、トラクター・ショベルが地面に広げた廃材から鉄筋を拾い集める作業に従事していたところ、廃材を広げるためにプラントから後進してきたトラクター・ショベルの左後輪にひかれた。	141	6	30～49
2008	12	11～12	産業廃棄物処理場において、産業廃棄物の解体用機械（クラッシャー）の右側面にいた被災者は、前進した当該解体用機械のカウンターウエイト右後部付近とコンテナ箱（1.8m×1.8m、高さ1m）の間にはさまれて死亡した。	169	7	1～9
2008	1	10～11	被災者は乗用車を運転して産業廃棄物処理場へ向かう途中、国道でスーパーの駐車場から出てきた軽自動車と衝突した。このはずみで被災者の乗用車が対向車線に飛び出して走行中のバキュームカーと正面衝突して死亡した。	231	17	1～9
2008	11	14～15	被災者はトラックを運転して事業場から廃油の収集を行った後、帰社する途中の国道の交差点で軽ワゴン車と衝突した。	221	17	1～9
2008	9	1～2	施設担当者が流動床型焼却炉のスラッジコンベヤーのチェーンを緊張したため、引継ぎ事項として当スラッジコンベヤーの稼働状況の確認を指示した。引継いだ被災者が定期パトロール作業中にスラッジコンベヤーの点検口から覗き込んだ際にはさまれた。	224	7	300～499
2008	10	9～10	被災者は、同僚（運転手）とごみ収集運搬車（2tダンプトラック）を使用して、資源ごみの収集作業を行っていた。その際、路上（坂道）に停車していた無人の当該運搬車が前方に動き出したため、当該運搬車を止めようとした被災者が付近の電柱と車両前方右角部分に身体をはさまれ死亡した。	221	7	30～49
		19	フォークリフトの油圧ホースが劣化していたため新しいものと取り替える作業を被災者が一人で行っていた。エンジンはかけていなかったが、修理			10

2008	3	～20	中にレバーに触れてしまったためキャビンの前とマストのベースにはさまれているところを発見された。	222	7	～29
2008	4	15～16	燃えるごみ、汚れたプラスチック容器等を入れたビニール袋を両手に持って廃棄用シュート投入口に向かっていたところ、転倒してシュート投入口の角で強打して死亡した。	416	2	10～29
2008	4	10～11	被災者は、客先の工場棟の屋上でペントハウス上に設置されている貯水槽の清掃作業を同僚1名と行なっていた。その際、当該貯水槽付近から約4m下の屋上床面に墜落して死亡した。なお、同僚は被災状況を見ておらず、被災者が墜落直前にいた位置は不明である。	419	1	30～49
2008	12	1～2	当事業場は、前日の午前8時から機械を停止していた。被災者は同僚と2人で宿直勤務（操業をしていない日に行う。）を行っていて、2人は午前1時頃に社内をパトロールした後、一度、休憩室に戻って来た。その後、被災者がいなくなったので同僚が社内を捜したところ、被災者がダスト調湿装置内にはさまれて逆さの状態になっていた。	162	7	30～49
2008	1	7～8	木くず再生処理を行う破砕機において、磨耗したハンマー部の肉盛（溶接）工事を終えた後、被災者が回転軸部分のある破砕機内部に入って溶接部の写真撮影を行っていたところ、他の作業者が破砕機を始動させたため、破砕機に巻き込まれて死亡した。	162	7	1～9
2008	1	18～19	作業終了時刻に被災者の姿が見えなかったため、同僚らが工場内を捜していたところ、金属屑を圧縮する装置（横押同調装置）の地下機械室で、当該装置の押板のアームにはさまれている被災者を発見した。	169	7	50～99
2008	11	11～12	産業廃棄物選別コンベヤーにおいて、廃棄物の選別作業に従事していた被災者が、コンベヤー下部のベルトの回転軸に衣服を巻き込まれ死亡した。	121	7	10～29
2008	1	8～9	事業場の資材置き場において、車両積載形トラッククレーン荷台上の型枠資材の積み下ろし作業を行っていたところ、突然、積荷が崩れて背部に激突し、これに押し出される形で荷台より転落して身体を強打した。	611	5	30～49

2008	10	13～14	焼却炉付属設備である排煙塔内部の点検業務を行っていた。点検作業を終えて枠組足場3段目の作業床上（H=5.1m）から点検作業時に使用していた移動はしごを地上に降ろそうとしたところ、バランスを崩して足場上から地上に墜落して死亡した。	411	1	30～49
2008	6	17～18	産業廃棄物の積換え保管場所において、トラックで運搬されてきた産業廃棄物の分別作業を行っていたところ、後進してきたドラグ・ショベルにひかれた。	141	7	1～9
2008	2	11～12	産業廃棄物処理事業場内において、全自動減容機（廃棄物を立方体に圧縮する機械）を使用して、ベルトコンベヤーから供給されてくる廃棄物を加圧する作業中に被災者が廃棄物投入口から機械内に落下又は立ち入ったため、加圧のためせり出してきたピストンと排出口との間に身体をはさまれて死亡した。	169	7	10～29
2008	4	11～12	被災者は、石膏の入った円柱形の袋（直径90cm、高さ約90cm）の上に乗り、乗っていた袋より一段高い位置に積まれていた同種の袋を重機で運搬するために、ワイヤーを重機のフックと運搬する袋のつり紐に取り付けていた。その取り付けを終えて重機の邪魔にならないように袋の上から後ろ向きに降りようとした際に、乗っていた袋の上のつり紐に足を引っ掛けて、後ろ向きに墜落した。	611	1	10～29
2008	1	3～4	ごみ収集のため、3名で2tトラックにてごみ収集に向かう途中、国道の中央分離帯の縁石に乗り上げて横転した。	221	17	10～29
2008	5	5～6	産業廃棄物処理施設内において、破砕機で破砕した木くず等を搬送するベルトコンベヤー付近の清掃作業を一人で行っていた被災者が、コンベヤー端部のローラー（直径約0.4m、幅約1.6m）とゴムベルト（幅約1.5m、厚さ約14mm）との間に巻き込まれて死亡した。	224	7	30～49
2008	4	8～	産業廃棄物処理施設内において、破砕機のフタを開けて内部に付いた土砂等をケレン棒等で取り除く作業中、同僚が排出コンベヤーの起動ボタンと破砕機の起動ボタンを押し間違えたため、破砕機が起動して破砕機の回転	162	7	30～

		9	部（ハンマー）と回転部をおおっている壁の間にはさまれて死亡した。			49
2008	9	6～7	被災者がタンクローリーを傾斜地（斜度8度）に停車させて汚水を積み込み（吸引）作業中、タンクローリーが後退し、後輪の下敷きになり死亡した。	221	7	10～29
2008	12	15～16	産業廃棄物処理場において、搬入された汚泥水を貯めておく水槽から固形物の分離処理を行うための沈澱処理槽へ大型バキュームカーを使用して汚泥水を移す作業中に水深約2mの沈澱処理槽の中に転落して死亡した。単独で作業していた被災者の姿が見えなくなったことから、被災者を捜していた同僚が沈澱処理槽の汚泥水を抜いてみたところ、処理槽の底に沈んでいる被災者が発見された。	418	10	1～9
2008	4	14～15	被災者は同僚1名と共に、タンク車で回収した汚泥を産業廃棄物処理場で排出した後、タンク内の洗浄作業を行った。洗浄作業終了後、被災者の合図で同僚がタンクを降下させハッチを閉じたが、被災者の姿が見えないことに気付きハッチを確認したところ、被災者がタンクとハッチの間にはさまれていた。	229	7	1～9
2007	9	10～11	産業廃棄物の処分場において、粉砕した骨材から不純物除去作業を行っていたところ、コンベヤーが詰まり、修理しようとしてコンベヤーに巻き込まれた。	224	7	1～9
2007	5	3～4	被災者が単独でパッカー車を運転し、廃棄物処分場から集取場所へ向かうため、走行していた際、普通乗用自動車が被災者の運転するパッカー車の側面に衝突し、パッカー車が横転した。	231	17	30～49
2007	5	16～17	産業廃棄物を搬入するために入場してきたトラックの誘導作業をしていた被災者が、後進してきた機械（ドラグ・ショベルのショベル部分を蟹のはさみ状のアタッチメントに交換した機械、機体重量５．４ｔ）のクローラーにひかれた。	149	7	30～49
2007	8	14～	被災者は使用しなくなったポリプロピレン製排水タンク（直径１．８m高さ３m）を解体するため、単独で携帯式丸のこ盤を用いて切断しようとし	131	8	50～

		15	ていた。その後、倒れているところを発見された。			99
2007	4	11～12	古紙収集を行なう事業場において、古紙を圧縮する紙プレス機のコンベヤー（ベーラー）のピット（深さ約３０～６０ｃｍ）内でダンボールの下敷きとなり仰向けに倒れている被災者が発見された。直前に被災者が同僚にコンベヤーを止めるように言ったことから同僚が気付き止めたが、すぐに下敷きの被災者に気付かず、しばらくしてから発見された。	224	7	10～29
2007	5	14～15	破砕機の上でボード製品の投入作業中、破砕機の投入口（幅１０ｃｍ）に巻き込まれた。	162	7	1～9
2007	8	5～6	ビルの産業廃棄物積み込み時に、気分が悪くなり、作業を中止して、運転席で横になって休んでいたが、１５分後に意識がなくなり、病院に搬送途中に死亡した。	921	90	30～49
2007	6	10～11	会社の倉庫内で、回収してきた古紙等を３ｔトラックから降ろしている最中にサイドブレーキをかけていなかったため、当該トラックが逸走し、それを止めに行った作業者が隣の家と当該トラックの間にはさまれた。	221	6	1～9
2007	11	1～2	高速道路をトラックで走行中、工事規制帯に駐車していた工事車両（散水車）が逸走し、規制帯から走行車線に進入したところに、被災者が運転するトラックが激突した。	221	17	50～99
2007	11	9～10	工場内の通路上に仮置きしていた鉄屑等を所定の置場に移動しようとして、４ｔトラックを後退させていたところ、同通路上を通行していた被災者に気付かず、ひいてしまった。	221	6	1～9
2007	11	20～21	鉄屑を裁断する鉄屑裁断機の刃の取り替えを行うため、手動運転に切り替えて、上下に取り付けられている板状の刃のうち、下側の刃を交換する作業中、裁断前に鉄屑を潰す「圧縮板」が突然降下し、その真下で刃を手で支えていた同僚がはさまれた。被災者は、再び圧縮板が上昇した際に同僚を助けようとしたが降下してきた圧縮板にはさまれた。	159	7	10～29
			鉄屑を裁断する鉄屑裁断機の刃の取り替えを行うため、手動運転に切り替			

2007	11	20～21	えて、上下に取り付けられている板状の刃のうち、下側の刃を交換する作業中、当該機械の内側に入り、交換する新しい刃を台座に載せて固定するボルトの穴位置を調整していたところ、裁断前に鉄屑を潰す「圧縮板」が突然降下し、その真下で刃を手で支えていた被災者がはさまれた。	159	7	10～29
2007	3	11～12	当該事業場工場内において、排水処理施設内備品の解体作業で作業終了後、施設内２階の壁面にある窓を閉めようとした際、２階床面の開口部（脱水機を解体作業で取り外した後の穴）から３ｍ下のコンクリート床面に墜落した。	414	1	30～49
2007	7	15～16	建築現場から回収した建築廃材を積載形トラッククレーンに積載して、自社のリサイクルセンターに向けて国道を走行中、交差点で信号待ちのため停車中のトレーラーに追突した。	221	17	10～29
2006	12	10～11	被災者は、金属圧縮機（自動機械）より出てくるプレスされた空き缶の搬出作業に従事していた。 同機の空き缶が入る部分（プレス部）に、この上方での作業に使用していた「ちり取り」が落ちて入ったため、被災者は、これを取り出すためプレス部の上部からのぞき込んでいたところ、自動運転している同機の上蓋が閉まり、圧縮盤が作動し、同機に挟まれた。	169	7	30～49
2006	12	8～9	被災者は、市内の事業場から金属バリをトラック（普通貨物自動車）に積んで自社へ運搬途中、交差点で信号待ちしていた乗用車に追突した。	221	17	10～29
2006	9	10～11	フォークリフト（最大荷重１．５ｔ）を傾斜地に止め、近くで別の作業を行っていたところ、当該フォークリフトが無人の状態で突然動き出し、それを停止させようと近づいた時にフォークリフトが横転し、被災者がその下敷きになった。	222	6	10～29
2006	10	14～15	被災者は機械整備工で、機械整備の合間に機材倉庫北側へ屋根を設ける作業を行っていたが、屋根の梁に掛けた梯子脇の床面に倒れている被災者が発見された。	371	1	10～29
2006	10	10～	被災者がゴミ収集車の後方ステップ上に乗り、収集車をバック運転していたところ、後方ステップ上に乗っていた被災者が落下し、収集車にひかれ	239	6	1～

		11	た。			9
2006	9	7～8	屋外において、フォークリフトを運転していたところ、当該フォークリフト が横転し、運転者がその下敷きとなった。	222	2	10～29
2006	9	10～11	被災者が３トンごみ収集車を運転して同僚と２名にて古紙回収を行っているとき、１２メートル下の山林に転落し、車と木にはさまれた。また、助手席に乗っていた同僚も、負傷した。	221	17	100～299
2006	7	19～20	作業所の岸壁において、建設発生土（残土）を船にコンベア等を使用して積み込む作業を５名で行っていた。積み込み作業終了後、一旦全員で船の中心あたりの岸壁で待機していたが、被災者は船の出航準備のため、船尾側の係留用ロープを船尾からもっとも離れた係船曲柱から外すため一人で岸壁を移動していたところ、係留用ロープに激突された。	239	6	10～29
2006	7	16～17	工場のベルトコンベヤーラインで選別作業中、同僚が被災者のいないのに気付き、階段下を見たところ、倒れている被災者を発見した。	413	1	10～29
2006	5	9～10	建設現場から出る産業廃棄物を扱う中間処理場において、被災者は、稼動中のドラグ・ショベル（バケットを解体用の油圧式クランプに交換）の真後ろで、手作業による産業廃棄物の選別作業を行なっていたところ、ドラグ・ショベルが後進し轢かれた。	149	7	50～99
2006	4	5～6	国道の交差点で乗用車と被災者が運転するトラックが出会い頭に衝突、運転手は死亡、助手席にいた助手は打撲の怪我を負った。	221	17	30～49
2006	3	15～16	トレーラーに荷物の積込後、荷台のシート掛け及び荷締めを完了後に、荷台上（高さ約３．８ｍ）から足を滑らせて地面に転落した。	221	1	10～29
		17	産業廃棄物の最終処分場内において、約５度の傾斜の地面に停止していたゴミ収集車が動き出したため、選別作業をしていた被災者は、同車を停止			30

2006	4	～18	させるため運転席に飛び乗った。同車は瓦礫の山に衝突して停車したが、被災者が死亡した。	999	90	～49
2006	4	9～10	廃品運び出し作業を本館２階と実験室２階とを結ぶ渡り廊下にて実施していた被災者が、約３メートル直下のトラック荷台に墜落した。被災当時約６０ｋｇ重のガスマトログラフィーを荷台に直接投下しており、当該機械も被災者とほぼ同時に荷台に落下した。	418	1	10～29
2006	3	17～18	リサイクルセンターへ産廃を運び込む作業中、脱着ボディーシステム車のエンジン動力伝達部分に土のうが絡まっていたため、車体に乗り土のうの袋を取り除こうとしたところ、あげていたコンテナの荷台が落下し、荷台と車体の間に挟まれた。	229	7	1～9
2006	1	10～11	工場内でガス溶断残滓を除去するため、ドラグ・ショベル（機体重量４．０４ｔ）を高さ６０ｃｍの台座の上に乗せようとして、天井クレーン（つり上げ荷重１０．２ｔ）でドラグ・ショベル後部をつり上げた時、ドラグ・ショベルの運転席にいた被災者が横転したドラグ・ショベルに挟まれた。	211	7	1～9
2006	3	0～1	家庭ごみ収集作業中に、市道を時速３０キロで走行中の機械式ごみ収集車より労働者が転落した。	221	17	1～9
2006	2	8～9	回収した廃船を修復し再使用するために、操船室の天井部分に設置されていたマスト（全高約６メートル）を根元部分で切断し、撤去する業務に補助者として従事していたところ、切断されたマスト（ワイヤロープを掛けて、リフチングマグネット式の重機により上方より繋がれていた）が振れて、それを避けようとした被災者が操船室の天井部分の作業床より約５メートル下の台船上に墜落した。	419	1	1～9
2006	2	10～	産業廃棄物処理作業場で、ビニールを圧縮・梱包する機械（幅９０ｃｍ、奥行７４ｃｍ、高さ２４０ｃｍ、重さ７９０ｋｇ）をハンドリフトを使用して引いて移動する際に、床面の異物で進まなくなったため、手伝いに来	362	6	1～9

		11	た被災者が機械の左側面を押している時に、不安定であった機械が被災者側に倒れて下敷きになった。			
2005	8	4～5	発酵槽において、高さ8mの点検用足場に上がり、メタンガスを排出するためのハッチが閉まらないよう角材を挟み込む作業を行った後、地面に墜落した。	418	1	30～49
2005	11	16～17	工場内において、機械設備の清掃作業中に攪拌機に挟まれた。	162	7	10～29
2005	3	14～15	トラクター・ショベルで舗装されていない道路を整備中、路肩から5m下の杉林に転落し、トラクター・ショベルの下敷きとなった。	141	1	30～49
2005	6	14～15	産業廃棄物処理工場内において、フォークリフトを所定の場所に移動させていたところ、前方にいた被災者に気づかず激突した。	222	6	10～29
2005	5	13～14	産業廃棄物最終処分場内において、廃棄物として出されていた消火器を鉄くずとして回収するため、車両系建設機械に取り付けた破砕機により、キャップを割り、消化剤を取り出そうとして消火器を挟み込んだ時、同消火器が跳ねて、側で合図していた被災者に激突した。	319	4	30～49
2005	10	15～16	伐採木の積込み作業のためダンプトラックの荷台に上がっていたところ、バランスを崩し、3m下の道路に墜落した。	221	1	1～9
2005	5	22～23	大型トラックでバイパスを走行中、故障により路肩に止まっていたトラックに衝突した。	221	17	30～49
2005	12	8～9	タンクローリーで走行中、対向してきたダンプトラックがセンターラインをはみ出してきて正面衝突した。	221	17	1～9

2005	7	11～12	産業廃棄物処理場内の調整池から流れ出す水の水質管理をしていた被災者が、当該池にボートで入った際、水中に転落した。	911	10	10～29
2005	4	8～9	鉄製の箱を地上から高さ2mの位置でフォークリフトのフォークに載せたままの状態で後退移動中、この箱がフォークから落下し、被災者に激突して下敷きとなった。	222	4	10～29
2005	4	16～17	ごみ（ウレタン）の除去作業中、作業場所近くの大ガラ置き場で、地面と石との間に挟まれた。	523	4	1～9
2005	1	13～14	おがくずの回収作業中、おがくずが崩壊し、埋もれた。	522	5	1～9
2005	4	17～18	事業場敷地内に駐車していたトラックを移動させるため、その前方に駐車しており進行の妨げとなっていた他の車を別の場所に移動させ、元のトラックに向かっていたところ、後方に逸走してきた他のトラックに激突され、駐車していた別の車両との間に挟まれた。	221	6	10～29
2005	8	16～17	廃プラスチック破砕機に廃棄塩ビ管を投入していたところ、ホッパー内に転落し、回転中の破砕機のローターに巻き込まれた。	162	1	1～9
2005	4	6～7	国道沿いの事業場敷地内に軽トラックを止めて作業準備をしていたところ、飲酒運転の乗用車が軽トラックに追突し、はずみで軽トラックが押し出され、軽トラックの前方で作業をしていた被災者をはねた。	231	17	1～9
2005	2	11～12	焼却炉の補修作業のため廃棄物を投入するシリンダー室より、焼却炉の内部を確認中、廃棄物を投入する起動スイッチを他の作業者が操作したため、被災者が動き出した扉に挟まれた。	169	7	10～29
2005	10	18～	土壌洗浄プラント内において、土壌洗浄作業の運転管理作業中、砂搬出用ベルトコンベヤーのローラー下端部に巻き込まれたスコップに激突され	224	7	10～

		19	た。			29
2005	12	0～1	高速自動車道インターチェンジ出口付近において、左カーブを曲がりきれずに道路右側へ横転し、そのはずみで、車外に投げ出され、横転したトラックの下敷きとなった。	221	17	30～49
2005	3	16～17	建設現場から運搬してきた泥土を、産業廃棄物処理施設内の深さ3.7mの処理槽に廃棄するため、ダンプトラックの運転席において、荷台を上昇させたところ、車両前部が浮き上がり、半回転した車両とともに処理槽内に転落した。	221	1	10～29
2005	3	4～5	産業廃棄物中間処理を行う工場内において、廃棄物の第１次仕分け作業終了後、第２次仕分け作業を行う残渣をトラクター・ショベルにより収集作業中、後退してきたトラクター・ショベルにひかれた。	141	6	50～99
2005	10	15～16	ゴミ処理施設において、ごみ収集車のテールゲートを開けゴミをピットに投入する作業で、ゴミの投入補助をしていた被災者が収集車のテールゲートに挟まれた。	229	7	10～29
2005	7	17～18	フォークリフトを使用して産業廃棄物を強酸が満たされたピット（水深1.2m）に投入する作業中、被災者がフォークリフトから降りたところピット内に転落した。	391	1	1～9
2005	8	19～20	トラックにダンボール等を積み込んでいる途中、突然意識不明となった。	715	11	1～9
2005	11	14～15	スクラップの解体作業中、地面に墜落した。	169	1	1～9
2005	12	17～18	分別した廃材をフォークリフトで所定の置き場まで運ぶ際、前方にいた被災者に衝突した。	222	6	30～49
		14	砕石プラントにおいて、被災者がドラグ・ショベルを操作し、ホッパーに			10

2005	3	～15	コンクリート廃材を投入していたところ、ゴムベルトコンベヤーの端部のゴムベルトとプーリーとの間に挟まれた。	169	7	～29
2005	9	16～17	フォークリフトからバケット（重さ310kg）を取り外す作業中、バケットの下敷きとなった。	222	4	1～9
2004	2	13～14	産業廃棄物処理場中間保管場所敷地に隣接する川の堰堤（高さ約6.5m）の端から墜落した。	418	1	30～49
2004	5	9～10	産業廃棄物選別棟において、分別棟内の電線置き場に廃棄物を置き、所定の持ち場に戻る際、方向転換のため後退したトラクター・ショベルの後輪にひかれた。	141	7	1～9
2004	1	13～14	ごみ収集車を道路上に停車させ、ごみ収集作業を行おうとしたところ、停車していた位置が約5%の傾斜地であったため、その位置からごみ収集車が後退し、後方のブロック壁に衝突した。その際、被災者は、ごみ収集車と当該ブロック壁の間に挟まれた。	239	17	1～9
2004	1	7～8	汚泥運搬用のバキュームカーの始業前点検を運転手と被災者で行っていた際に、運転手が、タンク後部の油圧式で開閉するハッチを50～60cm開けてタンク内の汚泥の量を確認するためのフロートや、バルブの働きが正常であるかを点検し、これを終えたためにハッチを閉じようとしてレバー操作したところ、被災者がハッチに挟まれた。	221	7	30～49
2004	12	14～15	事業場構内の自動車保管場所でフォークリフトによる作業を終え、下り坂（勾配13度）をフォークリフトを運転して下っているときに、進行方向右側の土手に乗り上げバランスを崩しフォークリフトごと転倒した。	222	2	1～9
2004	12	15～16	スクレーパコンベアを清掃中、スクレーパコンベアの歯車とコンベアチェーンの間に巻き込まれた。	224	7	30～49
			不法投棄廃棄物の撤去作業完了後、重機をコンテナ車に載せようとコンテ			

2004	1	15～16	ナの半分ほどまで載せたとき、上部旋回体を約90度旋回させたところ前方部が浮き始めたので被災者が重機から飛び降りようとしたが操作レバーにつまずき転倒し、その転倒したところに重機が倒れてきてヘッドガードと地面に挟まれた。	149	7	30～49
2004	2	15～16	被災者がドラグ・ショベルの横を通って、後方のトラックへ行こうとした時に、作業中のドラグ・ショベルと横にあった廃材とに挟まれた。	142	7	1～9
2004	12	15～16	フォークリフトのフォークが上がったままになっていたので、運転者がフォークを下げようと運転席に乗らず運転席右側から手を伸ばしエンジンキーを回したところ、ギアが1速および前進に入っていたため前進し、付近で選別作業を行っていた被災者をひいた。	222	7	1～9
2004	11	8～9	スレートでふかれた工場の屋根に同僚と2人で上がり、屋根上の苔等を除去する作業を行っていたところ、スレートを踏み抜き9.5m下のコンクリート床面に墜落した。	415	1	10～29
2004	6	16～17	産業廃棄物中間処理業におけるコンクリート塊等破砕プラントのゴム製ベルトと金属製ローラーの間に挟まれた。	224	7	10～29
2004	12	7～8	出勤のためオフィス棟の地下2階から地下3階に階段を降りる際、足を踏み外し踊り場へ転落した。	413	1	10～29
2004	11	13～14	産業廃棄物中間処理場において、残土と石灰を混合するパドルミキサー内部に固着した固形物の除去作業をしていたところ、パドルミキサーが突然動き出して、パドルミキサーの回転軸に巻き込まれた。	162	7	10～29
2004	11	13～14	産業廃棄物中間処理場において、残土と石灰を混合するパドルミキサー内部に固着した固形物の除去作業をしていたところ、パドルミキサーが突然動き出して、パドルミキサーの回転軸に巻き込まれた。	162	7	10～29
		10	ゴミ集積所内において作業中、停車していたゴミ収集車が緩い下り坂で後			10

2004	11	～11	ろに動き出し、車とゴミ集積所の棚との間に挟まれた。	221	6	～29
2004	9	17～18	がれき受入ヤード入口付近の緩やかなスロープ部で、砂利入りのコンテナバック（1m×1m円筒形、重量1.2t）をフォークリフトでつり上げて移動中、右側前輪がスロープから脱輪、バランスを崩し横転したフォークリフトに挟まれた。	222	7	30～49
2004	1	10～11	特殊焼却施設内にある消石灰タンクが詰まり焼却運転中に頻繁に閉塞するため、タンクの消石灰を全て抜き取るためにタンク内部に入り、固まった消石灰を棒で押していたところ、消石灰に埋没した。	391	1	50～99
2003	12	20～21	産業廃棄物処理工場において、6名で工場内に設置してある自走式せん断機とその周辺の清掃作業中、せん断機の刃の掃除をしていた者の姿が見えなくなったので辺りを探したところ、ホッパー内に転落しせん断機に巻き込まれて死亡していた。	162	7	10～29
2003	11	8～9	トラックでコンプレッサーを搬送中に、ハンドルをとられて対向車線に大きくはみ出し対向の11tトラックと激突し、助手席に乗っていた者が死亡した。	221	17	1～9
2003	11	9～10	敷地に野積みされていた廃パレットを撤去する作業で、フォークリフトでトラックの荷台に積んでいたところ、地面が砂利敷きのためフォークのタイヤが潜って操作不能となった。これをトラックで牽引したときに、フォークが横転しフォークの運転者が地面とフォークとの間にはさまれた。	222	2	1～9
2003	10	9～10	廃材仕分け用重機（ドラグ・ショベルのアタッチメントをはさみの形状に取り替えたもの。以下「フォーク」という。）でダンボール片を仕分ける作業で、高さ約1mに積まれたダンボール片をフォークでつかんで運搬しようとしたときに、フォークの運転席からは死角となっていたダンボール片の近くにいた者をダンボールとともにフォークでつかんでしまった。	149	7	50～99
		15	リサイクルセンター内の廃棄物粉砕作業場所において、2名の作業員がそれぞれに重機を操作して産業廃棄物を粉砕機に投入する作業を行っていて、			30

2003	10	～16	休憩のため重機から降りて同僚に缶コーヒーを手渡すため同僚の重機に近づいたときに、重機が突然バックしたため重機左クローラ部分にひかれた。	149	7	～49
2003	10	15～16	事業場内において、10tダンプ・トラックに重機で建設廃材の木材片を積み込んだのち、荷台上（高さ3.35m）で荷台から飛び出している木材片の整理作業中に、荷台の縁から足を滑らせて地面に頭から墜落した。	221	1	1～9
2003	10	10～11	コンクリート屑等の建築廃材リサイクルで、破砕したコンクリート屑をベルトコンベヤで運ぶ途中でコンクリート屑から鉄筋等のゴミを手選別により拾い上げているときに、ローラー付近に落ちた鉄屑等を拾おうとしてコンベヤに巻き込まれた。	224	7	10～29
2003	10	11～12	貨物自動車をリサイクルセンター敷地内に入れるため、敷地入口の扉を開けてもらおうと貨物自動車を降りて入口扉の右側の塀に取り付けられたベルを押そうとしていたときに、サイドブレーキの引きが甘かったため貨物自動車が動き出し、貨物自動車と塀との間にはさまれた。	221	6	10～29
2003	10	10～11	産業廃棄物（木皮、木屑等）を処理するため、ショベルローダーのバケットで木屑をすくって 粉砕機へ投入しようとしていたときに、ローダーが前方へ 転倒して粉砕機を載せた台車に激突したため、台車が移動し台車とコンクリート塀との間にはさまれた。	225	7	10～29
2003	9	7～8	作業ヤード内で、内装解体現場よりトラックで搬入した廃材を重機で摘みショベルローダーのバケットに移していて、こぼれ落ちた廃材を拾うとしてトラックとローダー間に入ってきたときに、ローダー運転手がローダーを後進させようとして前進させてしまったため、ローダーバケットとトラック荷台との間に腹部をはさまれた。	141	7	10～29
2003	7	16～17	法面（のりめん）（勾配約40～48度）の草刈り作業中、高さ約12.5mの崖から転落した。	711	1	30～49
		14	再生砕石工場で、ベルトコンベヤに詰った土砂を取り除く作業をしていた			1～

2003	7	～15	ときに、運転を停止しないで作業を行ったため、右半身をベルトコンベヤに巻き込まれた。	224	7	9
2003	7	7～8	廃棄物の収集運搬作業中に、スーパーの廃棄物置場付近で倒れているところを発見され病院に運ばれたが死亡した。	911	90	1～9
2003	6	11～12	トラクター・ショベル（機体質量1.5t）を使用してドラム缶（約200kg）をつり上げる作業で、玉掛けのためトラクター・ショベルのアームを上げた状態で運転席から降りようしたときに、運転席内のアームを降下させるペダルに触れたためアームが降下し、アームはドラム缶に当たって停止したがアームの油圧の力により前輪が浮き上がり、アームと車体の間に頭部をはさまれた。	141	7	1～9
2003	5	11～12	焼却炉の排気煙突外部に取り付けられた作業台（高さ約10m、幅約1.5m、奥行約0.5m）上で、作業台に鋼製手すりをアーク溶接により取り付けようとしていたときに、仮溶接が終わった手すりとともに地上へ墜落した。	416	1	1～9
2003	3	10～11	ゴミの中間処理場で、手作業でゴミの選別作業をしていたときに、直進してきたホイルローダーにひかれた。	141	7	10～29
2003	1	16～17	産業廃棄物処理場において、手分けでゴミの仕分け作業を行っていたときに、アタッチメントをつかみ用に交換した車両系建設機械が移動してきてクローラにひかれた。	149	7	10～29
2003	1	15～16	10tトラックの荷台後部床面の腐食個所の鉄板張替作業後に、後部あおり（質量約150～200kg）と荷台床面との間に胸部をはさまれた。	221	7	100～299
2002	12	7～8	ドラグショベルでトラックに瓦礫等を積載作業中に、身体を車外に乗り出してブームに挟まれた。	142	7	1～9
		4	水銀を含む汚泥を焙焼する処理装置において、ガスをシャワーリングする			100

2002	11	～5	工程で強酸（PH2）となった洗浄水が入った送水タンク（容量1000?）にPH調整のため大量の苛性ソーダ（粒状）を投入したところ、洗浄水と苛性ソーダが急激に反応して爆発的に噴出し 全身に浴びた。	514	12	～299
2002	11	14～15	産業廃棄物（金属くず等）をフォークリフトで回収してダンプに積みフォークリフトをバックしたところ、フォークリフトの爪（高さ2.55m）から金属製コンテナ（112ｋｇ）が落下して胸に激突し、激突した衝撃で後ろに転倒した。	611	4	1～9
2002	11	13～14	2ｔトラックで家屋廃材を積んで走行中、ガードレールに接触して横転したところに対向のトラックが衝突し、さらにこのトラックに後続の乗用車が追突した。	221	17	10～29
2002	10	13～14	小売店の駐車場で、ごみ収集車で段ボールの回収作業中に収集車の回転板に上半身を巻き込まれた。	221	7	10～29
2002	8	14～15	産業廃棄物処理会社の焼却炉の蓋の補修工事において、当日の朝まで焼却が行われていたため午前７時から炉内の灰に水をかけて炉を冷やし午前10時から作業を開始したが、午前2時頃に気分が悪くなり屋外の休憩場所で休んでいても回復しないので病院に移送したが死亡した。（熱中症）	715	11	10～29
2002	2	5～6	事業場内の斜面に約13mの電柱を設置する工事において、穴を掘って電柱を立てて埋め戻しを行ったのち休憩していたところ、自立していた電柱が倒れてきて下敷きになった。	419	7	10～29
2002	9	14～15	休止ダクト撤去の準備作業として堆積粉じんを床面に落とすため、遮蔽板を支えていた鋼材をグラインダーで切断しかけたときに、遮蔽板もろとも堆積粉じん約20?が落下し埋まった。	519	4	1～9
2002	8	14～15	廃棄物処理プラントにおいて、破砕機へ投入するコンベヤーのプーリーに付着した異物を取除こうとして、コンベヤー先端付近から稼働している破砕機ホッパー内に墜落し、下肢を破砕機の回転歯に巻き込まれた。	162	7	10～29
		16	圧縮したプラスチックをワイヤーで梱包する機械の近くで物を拾おうとし			10

2002	7	～17	て、機械と柱との間に挟まれた。	169	7	～29
2002	6	7～8	アスファルト再生プラントにおいて生産開始前の点検作業を行っていたところ、二次破砕ホッパーの下部排出口の詰まりを発見したので長さ2mの鋼管を持ってホッパー内に入ったときに、突然、足元の内容物（アスファルトを砕いたもの）が崩れホッパー内で生き埋めになった。	391	1	1～9
2002	4	8～9	産業廃棄物を焼却するため、車両系建設機械を用いて運搬中に横転した。	149	1	1～9
2002	4	14～15	産業廃棄物の選別作業を行っていたときに、他の者がトラクター・ショベルを後退させたためトラクター・ショベルに巻き込まれた。	141	6	10～29
2002	6	15～16	破砕機（クローラ式の下部走行体に2軸せん断機とホッパー・排出コンベヤーがついている、質量16t）で畳の破砕中に、せん断機が詰まったのでホッパー内に降り、せん断機のカッターに両下肢、両上肢を巻き込まれた。	162	7	30～49
2002	5	8～9	廃木材をチップ材に再生する再生工場において、始業時にプラントを稼働させるため別の場所にいた同僚がシュレッダー（粉砕機）の運転スイッチを入れたところ、シュレッダー（粉砕機）に巻き込まれた。	162	7	1～9
2002	5	14～15	サーマルリサイクル施設の感染性廃棄物貯留場内で、感染性廃棄物供給装置の運転を指示されて1人で4階の中央操作室を出て1階の操作盤に行き起動させたが約10秒後に異常が発生し、その後2～3分経過してもリセットされないので、同僚が確認に行ったところ1階NO2感染性廃棄物コンベア横で倒れていた。	229	7	30～49
2002	5	0～1	資材置場に積み上げられたコンクリートがら（高さ約12m、幅約50mm、奥行約9.5m）を処理するため、ダンプトラックの荷台にバックホーでコンクリートがらを移し替えていたところ、コンクリートがらの一部が崩れ落ちバックホーの運転手を直撃した。	711	5	10～29

2002	4	8～9	高さ3.2m、直径2mのFRP製塩酸タンクの更新作業において、タンク内の濃度35%の塩酸を抜き取るため、タンクタラップを登って頂部のマンホールを開けるため頂部の鏡板に乗ったときに、鏡板が破れたためタンク内に落下した。	321	1	50～99
2002	4	15～16	工場建屋内で、重機（フォークグラブ）で軽量コンクリート板を粉砕機に投入する前処理のため、フォークグラブのフォークで粉砕やキャタピラーで踏みつけ粗粉砕しているときに、近くで発じん防止のため散水していた者がフォークグラブのカウンターウエイトとコンクリート壁との間に挟まれた。	229	6	1～9
2002	3	6～7	一方通行の道路上で、パッカー車の運転者が他の作業員を手伝うためパッカー車から降り、道路反対側にある塵芥収納庫に出されたごみを回収するためパッカー車前方から道路を横断していたときに、走行してきたトラックに跳ねられた。	221	17	1～9
2002	2	16～17	リサイクルマスターと呼ばれる空缶プレス機械により回収された空缶をプレス加工中、プレス機内で残ったかすを除去しようとしていたときに、操作盤にかかった右手で投入口開閉スイッチを誤操作したため蓋が閉まり頭部を挟まれた。	159	7	10～29
2002	3	10～11	廃棄物処理場において、産業廃棄物解体用機械の後方で仕分けした廃棄物を手作業によりコンテナ箱に入れる作業中に、旋回した解体機械の後部とコンテナ箱との間に挟まれた。	169	7	10～29
2002	3	10～11	産業廃棄物処理場の満水になったピット（直径1.4mの円筒状で深さ2.1m）の清掃のため、蓋（格子状、質量70kg）を開けようとしたときに蓋もろともピットに墜落した。	418	1	10～29
2002	1	10～11	産業廃棄物リサイクルセンターで廃木材を粉砕してチップ状にする粉砕機の操作業務中、旋回した廃木材投入用重機（ドラグショベルに爪状のアタッチメントを取付けたもの）の右後部のカウンターウエイト部と粉砕機の昇降階段部分に頭部等を挟まれた。	149	7	1～9

2002	1	4～5	産業廃棄物を運搬するため4tトラックで大橋を走行中、欄干を突き破り約10m下の川に転落した。	221	17	10～29
2001	12	10～11	廃材置場で、最大積載量3．6tのトラックの荷台上からパチンコ台(重量13．5kg)をトラックの傍に置かれた鋼製コンテナの中へ投下中、パチンコ台が服に引っかかって台とともに投げ入れていたコンテナ上へ転落し、コンテナの縁に取付けられていたピースで腹部を強打した。	611	1	1～9
2001	12	9～10	産業廃棄物処理施設において、トラクター・ショベルで木片・木クズ等を運ぶ作業をしていて、木クズを降ろすためバックしたとき近くにいた者を右後輪でひいた。	141	6	10～29
2001	10	13～14	産業廃棄物運搬車のエプロン上において荷台の中を点検中に、エプロンから運転席屋根に転落したのちコンクリート床上(3.38m)に転落した。	221	1	1～9
2001	12	9～10	コンクリート再生プラントにおいて、ドラグショベルでホッパーにコンクリート片を投入する作業中にクラッシャーが詰まったため、クラッシャー出口付近でスコップでコンクリート片を取り除く作業を行っていたときに、コンベアと地面との間にはさまれた。	224	7	30～49
2001	6	16～17	焼却場に廃材(木造家屋の解体で発生した木くず)を4tトラックで搬入されたので荷降ろしを手伝っていたところ、トラックの反対側からトラクターショベルで荷台の廃材を押し出したため、その廃材の下敷きになった。	522	4	50～99
2001	11	17～18	駐車場で爆発音がしたので様子を見に行ったところ、ダンパー車の横に血まみれで倒れている者を発見した。現認者がいないが、廃液から可燃性のガスが発生していて、タンクに入って廃液の量を確認しようとハッチを開放した際何らかの原因で引火したものと考えられる。	911	14	10～29
2001	8	19～20	リサイクル施設工場内の廃棄物供給コンベア機械の下端部で周囲の清掃作業を行っていたところ、コンベア板を駆動しているチェーンの連結部ピンが外れてチェーンが切断し、それに伴いコンベア板の連結も切れてコンベア板が顔に激突した。	224	6	30～49

2001	10	10～11	産業廃棄物を処理場に運搬しトラックでバイパスを走行中、左側壁に衝突し車外に投げ出された。	221	17	1～9
2001	2	20～21	セメント会社に焼却炭を運搬し会社に帰る途中にトラックが脱輪したためレッカーを手配し、しばらくして乗用車が近くに向かってきたのをレッカー車とまちがえ場所を教えるため飛び出してひかれた。	231	17	50～99
2001	9	14～15	車両系建設機械(ブレーカー)を運搬し、運んできたブレーカーをトラックから降ろすため、荷台を約15度上げブレーカーのエンジンをかけたところ、ブレーカーのクローラが滑りはじめバランスを失って荷台から横転、落下し、地面とブレーカとの間に頭部をはさまれた。	145	7	30～49
2001	8	22～23	産業廃棄物の中間処理作業場でクラブトロリ式天井クレーン(吊上げ荷重4．5t、機上運転式)のリフチングマグネット式の吊り具を使用し鉄屑の移動作業を走行レールに沿って運転台に乗り込む乗降場で運転台後部と鉄柵との間に挟まれた。	211	7	10～29
2001	7	14～15	廃棄物として回収してきたドラム缶の上蓋をガス溶断中に、ドラム缶が爆発し、その際に飛んだ上蓋が顔面に当った。	512	14	10～29
2001	7	13～14	フライトコンベアの破損部分を取替する作業において、破損部分を切断した後の研磨作業をピット部と地下1階に分かれて行っていたときに、ピット部で作業していた者がコンベアの送りスイッチを床に落としたためコンベアが動き出し、地下1階で作業していた者がコンベアに巻き込まれた。	224	7	1～9
2001	6	15～16	資材置場において、同僚と2人でリサイクル可能な鉄骨材の仕分け作業を行っていたところ、置場の脇に積まれていた鉄骨材の1本が斜めになっていたため、同僚がフォークグラップルを装備した重機を運転して真っ直ぐにし、2．3m後ずさりしたときにフォークグラップルでつかんでいた鉄骨材10本(総質量580kg)が落下しその下敷きになった。	149	4	100～299
			フォークリフトを運転して鉄製の容器に爪を刺して廃棄物処理施設から出			

2001	5	9～10	たごみの運搬が終わったのでフォークリフトを戻すため構内の傾斜地(勾配8度～18度程度)を直進してしていて、右にカーブして入庫しようとしたときにバランスを崩してフォークリフトが左側に横転し頭部をヘッドガードの縁に挟まれた。	222	2	50～99
2001	2	9～10	大型ダンプカー(10t)で高速道路を走行中、出口料金所へ向かうカーブを曲がりきれずにガードレールに接触して横転した。	221	17	10～29
2001	4	4～5	トラックで産業廃棄物(廃プラスチック)の入ったコンテナを最終処分場へ運搬するため国道を走行中、緩い右カーブで運転操作を誤ってトンネルの側壁に接触し横転して炎上した。	221	17	30～49
2001	4	13～14	構内道路においてバキューム車のポンプから流れ出た油を除去するため、ジョーロに中和剤を入れて路面に塗布していたときに、汚泥の入ったボックス(重さ約1．3t)を汚泥脱水プラントから仮置場へ運搬作業中のフォークリフトに接触し、荷と路面の隙間約25cmのところに頭部をはさまれた。	222	7	50～99
2001	4	13～14	建築廃材(鉄筋コンクリート)を破砕して礫として製品にする作業において、2次破砕に用いるスクロールクラッシャーの振動ふるいが作動しなくなったため、様子を見に行き振動ふるいを飛び越えようとして、ローラーミルの部分に両下肢を巻き込まれた。	162	7	1～9
2001	4	16～17	ホイール式トラクターショベルで4tトラックのけん引中にワイヤロープが切断したので交換しているときに、トラクターショベルが徐々に後退してきたため押していたが下敷きになった。	229	7	10～29
2001	3	15～16	鉄くずの回収で、ばら荷のスクラップをトラックに積み込み、そのスクラップの不純物を取り除く作業を行っていたときに、同僚が運転するクレーンのつり具(リフティングマグネット)に直撃された。	211	6	1～9
2001	3	6～7	大型トラックで自動車道を走行中、パーキングエリアから本線への合流地点で進入路のガードレールに激突した。	221	17	1～9

2001	3	21～22	事故渋滞のため停車していた車両5台の最後尾に、後方から走行してきた大型貨物自動車が追突し、停車していた車両5台も玉突き衝突となったが、車両の点検等のため自分の車両と後方に停車していた車両の間にいた運転手が、玉突き衝突により自分の車両と後方の車両との間に挟まれた。	221	17	30～49
2001	2	11～12	産業廃棄物中間処理施設で持ち込まれた産業廃棄物の分別作業中に、バックで運転中のトラクター・ショベル(ホイール式)の右後輪に触れ転倒し頭部をひかれた。	141	6	1～9
2000	7	14～15	廃品置場で廃品の積み込み作業を行うためグラップルクレーンを搭載した4t積みトラックを廃品置場横の県道(下り勾配8度)に止めアウトリガーを張り出していたところ、トラックが斜面を下り始めたのでそれを止めるため運転席に乗ろうとしたが間に合わず9m下のH鋼製の門柱に激突し、門柱とアウトリガーのブームとの間に挟まれた。	221	7	1～9
2000	9	16～17	大型トラックで国道を走行中、道路左側の敷地内に突っ込んで歩いていた2人のうち一人をはね、横転したのち駐車していた乗用車に衝突して止まった。(被災者は死亡1名、負傷者4名)	221	17	10～29
2000	11	11～12	産業廃棄物(金属くず)を運搬機械でダンプに運搬中に、荷卸の用意をしていた者を運搬機械の後部とダンプの後部との間に挟んだ。	149	7	1～9
2000	5	9～10	産業廃棄物処分場において、ドラッグショベルで地下焼却炉ピット内の焼却灰を除却する作業をしていていったん運転席を降り再度運転席へ戻る途中、ピットの可動式蓋のレール(高さ34cm)を乗り越えようとして左足がレールに引っかかりバランスを崩して転倒し、顔面を強打した。	417	2	10～29
2000	10	17～18	産業廃棄物中間処理施設において、トラクターショベルで搬入された産業廃棄物を木くず類・廃プラスチック類・その混合材の3種類に分別し、手作業で分類していて、手作業を行っていた者がトラクターショベルにひかれた。	141	6	30～49
2000	8	9～	軽トラックで走行中、対向の4tトラックのあおりがロックされていなかっ	221	17	1～

		10	たため、すれちがう瞬間に倒れてきたあおりと衝突した。			9
2000	3	14～15	大型ダンプカーで産業廃棄物を運ぶ途中、県道の緩やかな下り坂で車体の右側から横転し、運転席から車外に放り出されて車体の下敷きになった。	221	17	10～29
2000	11	17～18	産業廃棄物処理センター内において、産業廃棄物(空缶等約40kg)の入った合成繊維製の袋をフォークリフトのマストを4m67cm(マスト最上部までの高さ)伸ばして前向きに運行していたときに、作業所入り口の扉のレール部分(レール下部までの高さ4m60cm)に接触したため、フォークリフトが左側に転倒し、その下敷きになった。	222	2	30～49
2000	8	15～16	自動車修理業者の廃油を回収に行って坂道に停めた自分のタンクローリーが逸走し、下敷きになった。	221	6	10～29
2000	12	15～16	回収した有機溶剤等が入っていた「廃溶剤タンク」(内容積5?)の配管が詰まったので、内部の廃溶剤をバキュームカーで吸い出したのち、内部の側壁に付着していたスラッジをスコップで掻き落としていたときに有機溶剤中毒となった。	514	12	50～99
2000	9	14～15	傾斜角約5度の荷物発送場にテールゲート付ごみ収集車を駐車し、ジュースの空缶等のごみ収集作業を行っていたところ、ごみ収集車が動きだしてごみ収集車後部とプラットホーム(高さ0．8m)の端との間に挟まれた。	221	7	10～29
2000	9	8～9	H鋼構造物の防錆用塗装で使用する簡易マスクを取りに行き、その間に別の作業員が小型移動式クレーンを17mほど後退させたところ、運転に違和感を覚えたので停止させて見ると、マスクを取りに行った者が車体下部に倒れていた。	212	7	10～29
2000	6	9～10	吊り上げ荷重2．93tの積載型トラッククレーンで石膏ボードを満載した鉄製容器を荷台へ積み込む作業を行っていたときに、横のコンテナの上の角材(0．3×0．3×4m)に容器が接触したため、角材が落下しクレーン運転者に当たった。	212	4	1～9

2000	5	12～13	廃材を積込んで国道を走行中、中央分離帯を乗り越えて対向車と接触をしたのち、後続のトラックと正面衝突した。	221	17	10～29
2000	3	22～23	建設廃材等の焼却施設で、投入ホッパー及び焼却炉の運転担当者投入ホッパーのチェーンスプロケットに挟まれた。	121	7	1～9
2000	4	8～9	積載形トラッククレーン(吊り上げ荷重2．93t)の荷台に積み込んでいた産業廃棄物が入っているゴミバケット(総重量推定2t)をクレーンで吊り上げて脇のダンプトラックの荷台に移し替える作業でダンプトラックのあおりにバケットを立て掛けて仮置きしたのち玉掛チェーンを架け替えるため荷台に乗ったときに、バケットがあおりから滑落し激突した。	611	6	1～9
2000	6	14～15	倉庫内で廃棄物であるベッドのマットレスの解体作業を行っていたときに、バックしてきたトラクターショベルに接触転倒し、ショベルの右前輪に胸部をひかれた。	141	7	10～29
2000	6	9～10	廃棄物を焼却工場に搬入して車両を斜面に駐車し、用事で車両をはなれていたときに車両が動き出したので、車両を制止しようとして車両と廃棄物置場との間に頭をはさまれた。	229	7	30～49
2000	3	0～1	古紙の成形梱包機が故障したので、機械内部に立ち入ったときに、古紙の高さを検知するセンサーを遮ったために油圧の押出機が作動し、両足を挟まれた。	169	7	10～29
2000	3	10～11	廃油回収のためトラックで自動車道を走行中、側壁に衝突して車外に投げ出され全身を強打した。	221	17	10～29
2000	7	19～20	作業所内においてトラクターショベルを操作して分別した産廃ごみをコンベア横に押し集めるため前進させたところ、付近にいた者を右前輪でひいた。	141	7	30～49
		18	傾斜地(下り勾配5度)でトラックにドラグショベルを積み込んだ後、前上り			

2000	2	～19	の車台を戻すためトラックの側部でジャッキ下げの操作をしていたときに、トラックが前進し、側にあった別のトラックの荷台との間に体を挟まれた。	221	7	1～9
2000	3	10～11	廃液処理工場において、硫酸銅に消石灰を加えて中和させる槽(直径3．22m、深さ3m)のモーターのグリースアップを終えて戻る途中、槽のアクリル製の蓋を踏み抜いて蓋とともに深さ2．15mの液体の入った槽の内部に墜落した。	419	1	10～29
2000	10	8～9	解体した建築廃材の焼却場において、ホイール式グラップルで廃材を焼却炉に運搬していたときに、廃材の分別作業をしていた者をグラップルの右後輪でひいた。	229	7	1～9
2000	10	16～17	屋外ごみ分別作業場でドラグショベル、タイヤショベルとともにごみ選別作業をしていて、ドラグショベルの後方で待機していたところにタイヤショベル別の作業を行うため移動してきて待機していた者をひいた。	141	6	10～29
2000	5	7～8	道路拡幅工事現場に伐倒木を受け取りに行き伐倒木の積み込み作業を行っているときに、荷台から伐倒木と共に墜落し伐倒木の下敷きとなった。	611	4	30～49
2000	4	9～10	牛糞、生ごみ等の堆肥発酵槽のコンベア(幅3m、長さ3．5m)を上下させるモーター、減速機間を連結するベルト交換中、自重でコンベアが下降したことにより減速機側のプーリーが高速回転して破損し、破損片が左側頚部に当った衝撃で発酵槽底部(高さ2m)の堆肥上に転落した。	121	4	1～9
1999	10	9～10	産廃処分場の汚水ます(縦1．3m、横1．3m、深さ約5．5m)に水質検査のサンプルを取りに入ったところ倒れ、助けに入った3名も倒れ、うち3名が死亡した。	514	12	100～299
1999	9	8～9	開放された汚水中和槽の流入口で18Lバケツに汚水を溜める作業を行っていて汚水から発生した硫化水素を吸入し中和槽に転落した。	514	12	1～9
		9	産業廃棄物処理施設において、ガス冷却室(炉の燃焼ガスを水冷する施設)			10

1999	3	～10	の側面のマンホールから上半身を入れて内壁の付着物を除去しようとして、冷却室内に約10メートルを落下した。	418	1	～29
1999	11	0～1	4トントラックで国道を走行中、トレーラー(20t)がセンターラインを越えてきたのでこれを避けるため左側に寄ったところ、左側に設置されていた道路用側壁に当り、その後走行してきたトレーラーと衝突した。	221	17	1～9
1999	10	14～15	ドラム缶に入っていた漁網用防汚剤(主成分：キシレン76%)を塩ビ製ホースでタンクローリーに移す作業を行っていたところ、突然ドラム缶が炎上し、火傷した。	512	16	10～29
1999	9	10～11	汚泥処理施設内で、製造工場等から回収した汚泥に生石灰を投入し、攪拌して乾燥させる作業を行っていて、作業が一段落したので2ヶ所設けられたシャッターを開けようとしたときに突然爆発が起こり、出入口付近にいた作業員2名が火傷を負い、うち一名は入院治療を受けていたが、広範囲熱傷のため死亡した。	512	14	50～99
1999	10	9～10	産廃処分場の汚水ます(縦1．3m、横1．3m、深さ約5．5m)に水質検査のサンプルを取りに入ったところ倒れ、助けに入った3名も倒れ、うち3名が死亡した。	514	12	10～29
1999	10	9～10	産廃処分場の汚水ます(縦1．3m、横1．3m、深さ約5．5m)に水質検査のサンプルを取りに入ったところ倒れ、助けに入った3名も倒れ、うち3名が死亡した。	514	12	100～299
1999	9	14～15	産業廃棄物処理作業場のクラッシャーに玉石が詰まったため、ゴミを選別していた作業員とバックホーの運転手が復旧作業を行っていたが、バックホーは別作業の応援要請を受けたので一時的にトラブル処理を中断し、帰ってきたときに選別作業員がクラッシャー投入口内でトラブル処理にあたっていることを知らずに投入口内にバケットを入れ、選別作業員に激突した。	142	6	10～29
1999	8	6～7	施設内ごみピットより火災が発生したので消火活動を行ったが消火ができず、消防署に連絡して消防車が来たので誘導しようと屋外の門の所まで行ったときに、急性循環不全のため死亡した。	911	90	10～29

1999	5	9～10	プレハブ物置小屋のひさしの補修作業のため、ひさしへ脚立をかけ作業終了後にひさしから降りようとしたときに転落した。	371	1	1～9
1999	5	6～7	建設現場の廃材を収集するためクレーン車で走行中、反対車線側の歩道施設に激突・横転し、車外に放り出された。	212	17	50～99
1999	7	8～9	ゴミボックスに入れた建築廃材を車両積載形トラッククレーンに積んで産業廃棄物処理場に運び、ゴミボックスを横転させて中の建築廃材を投棄しようとしたところ、クレーンの定格荷重を超えたために横転し、その下敷きとなり死亡した。	212	2	50～99
1999	7	23～24	ダストボックスをフォークリフトのアタッチメントで挟んで持ち上げ汚泥ピットへダストを廃棄しようとフォークリフトを前進させ、ダストボックスをリフトで1．5m程上昇させた時、フォークリフトが傾き始め、汚泥ピット内へフォークリフトとともに転落した。	222	1	50～99
1999	6	11～12	事業場内の汚水排水処理施設において、水処理管理の業務を単独で行っていたときに誤って、水槽に落ちた。	419	10	1～9
1999	1	9～10	重機を使って鉄屑を破砕するため、破砕機へ供給するベルトコンベヤに鉄骨を載せる作業を行なっていたときに、破砕機の投入ホッパー付近の供給ベルトコンベヤに近寄り巻き込まれた。	224	7	1～9
1999	3	18～19	ドラグ・ショベルのアタッチメントをグラップルフォークに替えた産業廃棄物の整理等で、廃棄物の斜面上を重機で上り、高所にあった伐木を掴んで旋回したところ、アームの重さで前のめりになり、運転席から飛び降りようとしてレバーに引っかかり重機ごと転倒した。	149	2	1～9
1999	3	4～5	中間処理場から最終処分場に廃プラスチックを運ぶため10tトラックで走行中、前方を走行中の10tトラックの後部に追突し、ハンドルをとられてガードレールに衝突した。	221	17	1～9

1999	1	15～16	廃油置場で、廃油をドラム缶からバキュームカーで抜き取る作業をしていたところ、ドラム缶が爆発炎上し、焼死した。	512	14	10～29
1999	3	16～17	機体総重量9650kgのトラクターショベルで産業廃棄物の押し出し作業を行い、その作業終了後、後進でその場から発進したときに、車両の後方で清掃作業をしていた者を右側後輪でひいた。	141	7	50～99
1999	1	16～17	廃棄物を破砕機内に投入する作業中に、破砕機に巻き込まれた。	162	7	10～29
1999	1	1～2	タンクローリーが正門を出て市道を約12m進んだところで積雪のためスリップして立ち往生したのでショベルローダーで牽引するため、ワイヤーロープを掛けにいってバックしてきたタンクローリーとショベルローダーとの間に挟まれた。	221	17	30～49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。